

Syllabus

令和8年度

授業要綱

学校法人 野又学園
函館歯科衛生士専門学校

1年生



教育課程（令和7年度～）

分野	教育内容	学科目	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎	科学的思考の基礎	生物	1	30	30		
		情報処理	1	30	30		
		栄養学	1	20	20		
		衛生統計	1	15		15	
	人間と社会の理解	英語コミュニケーション	1	20	20		
		心理学Ⅰ	1	20	20		
		心理学Ⅱ	1	20		20	
		国語表現	1	30	30		
		ソーシャルマナー	1	15	15		
		キャリアデザイン	1	15	15		
小計		10	215	180	35		
専門基礎	人体(歯と口腔を除く)の構造と機能	解剖・生理	3	45	45		
		生化学	1	15	15		
	歯・口腔の構造と機能	口腔組織	1	15	15		
		口腔生化学	1	15	15		
		口腔解剖	1	30	30		
		歯牙解剖	1	15	15		
		口腔生理	1	15	15		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	30	30		
		薬理学	2	30	30		
		微生物学	2	30	30		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	保健生態学Ⅰ	1	30	30		
		保健生態学Ⅱ	1	30		30	
		保健生態学Ⅲ	1	30			30
		衛生行政	1	15			15
		社会福祉	1	15			15
		摂食嚥下	1	15		15	
口腔リハビリテーション	1	15		15			
小計	22	390	270	60	60		
専門	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	1	15	15		
		歯科医療倫理	1	15		15	
	臨床歯科医学	保存修復	1	20		20	
		歯内療法	1	20		20	
		歯周病学	1	20		20	
		放射線	1	30	30		
		歯科補綴	1	20		20	
		矯正歯科	1	30		30	
		小児・障がい者歯科	1	30	30		
		口腔外科	1	30		30	
		有病者歯科医療	1	15		15	
		審美・美容歯科	1	15		15	
	歯科予防処置論	口腔保健管理Ⅰ	5	150	150		
		口腔保健管理Ⅱ	5	150		150	
	歯科保健指導論	口腔保健管理Ⅲ	2	60			60
		歯科衛生過程	1	30			30
		高齢者歯科医療	1	30		30	
		地域包括ケア	1	30			30
	歯科診療補助論	診療補助Ⅰ	4	120	120		
		診療補助Ⅱ	3	90		90	
		診療補助Ⅲ	2	60			60
		看護学	1	30		30	
介護技術		1	15	15			
臨地・臨床実習	臨地・臨床実習	25	750	30	330	390	
小計	63	1775	390	815	570		
選択 選択 必修	選択・必修分野	体育	1	30	30		
		OSCE	1	30		30	
		教養講座	1	15	15		
		歯科医療事務	1	30			30
		学級コミュニケーション	4	120	60	30	30
		課題研究	1	30			30
		総合講義	4	120			120
	小計	13	375	105	60	210	
合計			108	2755	945	970	840

※ 1単位・・・講義 15～30時間 実技 30時間 演習 15～30時間 実習 30時間

授 業 進 度 表

		1年前期					1年後期						
科目	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生 物	5	●————●											
情 報 処 理	6	●————●											
栄 養 学	7						●————● ●—●						
英語コミュニケーション	8-9	●————●											
心 理 学 I	10						●————● ●————●						
国 語 表 現	11	●————●											
ソーシャルマナー	12	●——●											
キャリアデザイン	13	●————●											
解 剖 生 理	14-15	●————●					●————● ●—●						
生 化 学	16						●————●						
口 腔 組 織	17	●————●											
口 腔 生 化 学	18						●————● ●—●						
口 腔 解 剖	19	●————●											
歯 牙 解 剖	20	●————●											
口 腔 生 理	21						●————● ●—●						
病 理 学	22						●————● ●—●						
薬 理 学	23						●————● ●—●						
微 生 物 学	24						●————●						
保 健 生 態 学 I	25	●————●											
歯 科 衛 生 学 総 論	26	●——●											
放 射 線	27						●————● ●—●						
小児・障がい者歯科	28						●————● ●—●						
口 腔 保 健 管 理 I	29-31	●————●					●————● ●—●						
診 療 補 助 I	32-33	●————●					●————● ●—●						
介 護 技 術	34						●————●						
臨 地・臨 床 実 習	35						●—●						
体 育	36						●————●						
教 養 講 座	37						●————●						
学級コミュニケーション	38	●————●					●————● ●—●						

教科名	生物	時期	1年 前期	担当者	松崎 正浩	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (30)	形態	講義			
概要						
・ 生命科学は生物を基礎にした学問である。生物では、「生命はいかにして誕生したのか」「生命の単位である細胞と組織」「生殖と遺伝」「環境と動物の反応」などについて学ぶ。						
到達目標						
1 医療関係職種に共通する生物の基礎知識を系統的に学習し、歯科衛生士として生物学の知識と応用を体得して医療に携わることを目標とする。						
計画・(内容)						担当
1 生命とは何か (①生物には特徴がある ②生命をつくる物質) 2 生命の誕生 (①原始の地球 ②化学進化と有機物の期限 ③原始細胞) 3 生命の変遷 (①単細胞の生命体 ②核と細胞小器官の起源 ③生物の進化の仕組み) 4 生物は細胞からできている (①細胞とつくる物質 ②生命の単位-細胞) 5 生物は細胞からできている (③細胞小器官 ④細胞のさまざまな活動) 6 細胞の一生と個体の成り立ち (①細胞の一生 ②単細胞生物と多細胞生物) 7 細胞の一生と個体の成り立ち (③ヒトの組織 ④ヒトの器官) 8 生殖によって子孫をつくる (①生殖の方法 ②減数分裂) 9 遺伝と遺伝子 (①遺伝とその法則 ②生命をつくる仕組み ③遺伝子を働かせる仕組み) 10 発生して体をつくる (①発生の過程 ②発生の仕組み) 11 刺激の受容と反応 (①動物は感覚器で刺激を受容する ②神経系による刺激の伝達) 12 刺激の受容と反応 (③中枢神経と末梢神経 ④反応と効果) 13 内部環境を保つ仕組み (①多細胞生物の細胞 ②ホルモンとその働き) 14 内部環境を保つ仕組み (③自律神経とホルモン ④生体防御) 15 動物の行動と変化 (①動物のさまざまな行動 ②ヒトの進化と未来)						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 生物学				評価方法 ノート提出(40点) 筆記試験(60点) 合計100点		
留意事項						
・ ノート提出は第7講(1回目)・第15講(2回目)の終了時に実施し、各回において評価点を提示するが、1回目はチェックおよび助言を与える機会とし、最終的な教科の評価としては全過程を総合的に判断した2回目の点数を採用することとする。						

教科名	情報処理	時 期	1年 前期	担当者	山崎 幸路	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義 ・ 演習			
概 要						
情報処理操作の基礎として、パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるマイクロソフトの「ワード」「エクセル」「パワーポイント」の操作技能を習得する。						
到達目標						
1 ソフトウェア使用上のルールとマナーを説明できる。 2 タッチメソッドを理解し、キーボード入力ができる。 3 ワードソフトを利用し、画像利用、地図作成などを含めた簡単なビジネス文書が作成できる。 4 パワーポイントソフトを利用し、画像、エクセルデータ等を素材とするプレゼンテーション資料が作成できる。 5 エクセルソフトを利用して、グラフ資料、いろいろな関数を利用した資料が作成できる。						
計画・(内容)						
1 基本操作(用語解説、セキュリティ、フリーズ対応、データ危機管理)、タッチメソッド習得、文書入力測定1 山崎						
2 Word操作(文字入力、表の編集) //						
3 Word操作(アイコン、イラストの挿入) Word確認テスト1とフィードバック //						
4 Word操作(依頼文の作成、差し込み印刷) //						
5 Word操作(画像の挿入と編集、スクリーンショット) Word確認テスト2とフィードバック //						
6 Word操作(図形描画、スマートアート) //						
7 Word確認テスト2とフィードバック 文書入力測定2 //						
8 PowerPoint操作(PowerPointの基本操作、レイアウトの利用) //						
9 PowerPoint操作(テキストの書式設定、グラフや図形の挿入、スライドマスターの利用)1 Power Point課題確認 //						
10 PowerPoint操作(テキストの書式設定、グラフや図形の挿入、スライドマスターの利用)2 //						
11 PowerPoint操作(ひな型利用、別データ利用、フォント・配色の視覚的効果)1 PowerPoint確認テスト1 //						
12 PowerPoint操作(ひな型利用、別データ利用、フォント・配色の視覚的効果)2 //						
13 PowerPoint確認テスト2 Excel操作(データ入力の手順、SUM関数、オートフィル、表[時間]編集1 //						
14 Excel操作(表[時間]編集2、棒グラフ、円グラフ、ドーナツグラフ) Excel確認テスト1 //						
15 Excel操作(グラフ作成まとめ) Excel確認テスト2とフィードバック 文書入力測定3 //						
教本・参考図書				評価方法		
30時間でマスター Word2021:実教出版(ISBN978-4407359381)				Word小テスト3回30点		
30時間でマスター PowerPoint2021:実教出版(ISBN978-4407359411)				PowerPoint小テスト2回30点		
30時間でマスター Excel2021:実教出版(ISBN978-4407359404)				文書入力テスト3回10点		
				Excel小テスト2回30点		
				合計100点		
留意事項						
・ 配布データがPCで編集可能か確認する。上書き操作でメッセージが出た場合解凍データの保存をやり直すこと。 ・ 配布データは授業データ、課題データ、テスト練習データとなります。指示に従い講義時間外に操作練習すること。						

教科名	栄養学	時 期	1年 後期	担当者	佐賀 暁美	実務・一般 管理栄養士
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講義			
概 要						
・栄養による口腔の炎症と全身疾患の関係や低栄養の影響が問題視されるようになっている今、栄養に関する多くの知識を歯科衛生士として学ぶ。 ・摂食・嚥下し、各栄養素が消化・吸収され、体内で代謝されていく過程の知識を深め疾患も含めた栄養(食事)の在り方を学ぶ。 ・食事摂取基準などを理解することで日本人の栄養摂取状況の実態を把握し、食品をバランスよく組み合わせライフステージ別に「望ましい食生活」へと、導くことを学ぶ。 ・栄養ケアの内容を知り、チーム医療への役割を学ぶ。						
到達目標						
①栄養学と歯科衛生士の必要性を理解する。 ②各栄養素別の消化・吸収による代謝から はたらきや健康・疾病を概説できる。 ③国民の食に関する問題点を理解し、食事と食品を食事摂取基準などから望ましい食生活を説明できる。 ④ライフステージ別の特徴と栄養の要点を説明ができる。 ⑤栄養ケア・マネジメントを学び、医療チーム(NST)の一員としての役割を理解する。						
計画・(内容)						担 当
1 栄養学と歯科衛生士 栄養の概念・栄養と食生活(栄養摂取状況の変遷と問題点など)						
2 栄養素の種類とはたらき① 糖質・脂質の栄養的意味						
3 栄養素の種類とはたらき② タンパク質・ビタミンの栄養的意味						
4 栄養素の種類とはたらき③ ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味						
5 栄養素の消化・吸収 各栄養素別など						
6 健康と栄養 食生活の施策・食事摂取基準・食品の安全						
7 食事と食品 食事の基本・バランスガイド・食品分類と特徴・機能・調理・摂食嚥下など						
8 ライフステージと栄養 妊娠・授乳・乳児・幼児						
9 ライフステージと栄養 学童・思春期・成人・高齢期						
10 栄養ケア・マネジメント チームアプローチ・スクリーニング・アセスメントなど						
教本・参考図書 * 人体の構造と機能3 栄養学 (医歯薬出版株式会社)				評価方法 筆記試験100%		
留意事項						

教科名	英語コミュニケーション	時 期	1年 前期	担当者	ニコラス・ブラウン Nicholas Brown	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義			
概 要 このクラスでは、外国人との英語で会話をする際に役立つ、英語の単語、文法、フレーズ、表現を学びます。 基本的に英語だけで授業を進めますが、必要な場合は、質問してください。 様々なアクティビティを通して繰り返し練習することで、クラスで学んだ英語表現を、自信をもって実際のシチュエーションで活用できるようになることを目標としています。						
到達目標 このクラスでは、初めて会う外国人と話す場合や、英語での道案内、買い物、また歯科医院などで様々な場面で活用できる英語の語彙、文法、表現を習得します。						
計画・(内容)						担 当
1ークラスについての説明、会話・ロールプレイ 2ー発表1・会話・ロールプレイ 3ー発表2・会話・ロールプレイ 4ー発表3・会話・ロールプレイ 5ー発表4・テスト① 6ー会話・ロールプレイ・発表5 7ー会話・ロールプレイ・発表6 8ー会話・ロールプレイ・発表7 9ー会話・ロールプレイ・発表8 10ーテスト② 定着度を見ながら、進度は調整します。 1週間に1度のクラスなので、少しずつでいいので、学習したことを、毎日練習してほしいと思います。言語の学習では、毎日の努力が大切です。						
教本・参考図書 プリント教材を配布します。				評価方法 テスト①②:各 20% 課題: 25% 発表: 25% レッスンへの積極的参加: 10%		
留意事項 ※クラス内では、英語学習効果を高めるため、ロールプレイなど生徒同士でのグループワークの際にも英語だけで会話するよう心掛けてください。						

教科名	英語コミュニケーション	時期	1年 前期	担当者	ニコラス・ブラウン Nicholas Brown	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (20)	形態	講義			
概 要 This class will teach students common words, grammar, phrases, and expressions that they might use when speaking to foreigners in English. I will mainly speak English in class, but please ask me anything in English or Japanese if you don't understand. Through the activities we do in class, I want students to be completely confident in using what they know. If you get a chance, please try these expressions out in real life!						
到達目標 In this class, you will learn enough English vocab, grammar, and expressions to do things like have basic conversations with foreigners in English, give directions, go shopping, and even do your job as a hygienist!						
計画・(内容)						担 当
1 - Class Introduction, Conversation, Roleplay 2 - Presentation 1, Conversation, Roleplay 3 - Presentation 2, Conversation, Roleplay 4 - Presentation 3, Conversation, Roleplay 5 - Presentation 4, Test 1 6 - Conversation, Roleplay, Presentation 5 7 - Conversation, Roleplay, Presentation 6 8 - Conversation, Roleplay, Presentation 7 9 - Conversation, Roleplay, Presentation 8 10 - Test 2 -Based on how students are doing, some of the section lengths might change -Especially because the class is only one time a week, I recommend that students study and practice a little bit by themselves every day. Daily effort is the key to language learning.						
教本・参考図書 Provided by instructor (mostly				評価方法 Test: 40% Homework: 25% Presentation: 25% Participation: 10%		
留意事項 ※Students who do not speak in English during exercises and disrupt the learning environment will be warned, and potentially asked to leave if they continue disrupting class after the warning.						

教科名	心理学Ⅰ	時期	1年 後期	担当者	林 美都子	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (20)	形態	講 義			
概 要						
歯科衛生士は、患者と良好な人間関係を築くことが重要である。また、職場内において医療スタッフとの人間関係を円滑にし、積極的に連携を図っていく姿勢も求められる。本講義では、心理学に関する主要な理論を学習し、人の様々な行動とその背景にある「ところ」について理解を深める。学習した様々な理論を臨床場面にどのように応用したらよいか、人間関係を築くために必要なスキルは何かなどについて考える演習を通し、他者理解、自己理解を広げるような講義とする。						
到達目標						
1. 知覚と行動、思考、記憶のメカニズムなどについて理解し、説明することができる。 2. 学習、動機づけなどに関する主要な理論について理解し、説明できるとともに、臨床場面でどのような場面に応用可能なのか自分なりの考えをもつことができる。 3. パーソナリティ・知能について理解を深め、自分自身と関連づけて考えることができる。 4. 人間関係づくりに必要なコミュニケーションスキルを習得する。						
計画・(内容)						
1. オリエンテーション(心理学とは?)、心理学の歩みと研究法 2. 見る・聴く・感じるころ(知覚成立の基礎、知覚の体制化、知覚の諸相) 3. 学ぶ・覚えるころ①(学習のプロセス)、人間関係力を育む(認知行動療法) 4. 学ぶ・覚えるころ②(記憶のメカニズム、記憶の病理とゆがみ) 5. やる気の心理①(動機づけ、動機づけの分類) 6. やる気の心理②(欲求) 7. 喜怒哀楽のころ(感情、フラストレーション、ストレス)、小テスト1回目 8. その人らしさの心理(パーソナリティの記述、パーソナリティの調べ方、パーソナリティの異常と障害) 9. 考えるころ(思考、問題解決、創造性)、小テスト2回目 10. かしこさの心理(知能、知能の測定、知的能力障害)						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 心理学 医歯薬出版株式会社				評価方法 授業内小テスト(40%)、授業内演習課題(60%)を基にして総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。		
留意事項 ・教科書は、2年次の心理学Ⅱにおいても使用します。						

教科名	国語表現	時 期	1年 前期	担当者	平井 尚子	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義 ・ 演習			
概 要						
ことばの持つ力と可能性を理解し自分の個性を表現できる歯科衛生士を目指す ①聞いてもらえる話しことばについて学ぶ ②かな書道を通じて日本語の豊かな表現方法を学ぶ ③書きことばを理解するため、文章を読み、理解し要約する力をつける						
到達目標						
① 話すことの要点をまとめ人前で話することができる ② かな書道によりかな文字と感じを理解し、自己を表現できる ③ わかりやすい文章を書く						
計画・(内容)						
1 オリエンテーション(「あいさつ」について学ぶ 自己紹介シートを作り発表する 次回の導入) 2 トーク番組「ゲストの話を聞こう!」を演じる(シナリオづくりとロールプレイ) 3 トーク番組「ゲストの話を聞こう!」を演じる(ロールプレイとシナリオの推敲) 4 日本語の漢字とかなの歴史を学ぶ(「いろは」から五十音への歴史を学び変体仮名シートを作る) 5 かな文字を筆で書く(基本といろはの練習) 6 かな文字を筆で書く(2文字連綿の練習) 7 かな文字を筆で書く(3文字連綿の練習) 8 小作品作り(色紙に小作品を作り自分の名前を記す) 9 手紙を書く(手紙の歴史や手紙を書く意味・手紙の形を理解する 友達へのお礼の手紙を書く) 10 手紙を書く(縦書きで目上の人にお礼の手紙を書く) 11 日本在住の外国人について学ぶ(在住外国人の状況と日本語能力試験について学ぶ) 12 外国人の学ぶ日本語を理解する(敬語を中心に日本語能力試験に挑戦する) 13 新聞を読む(新聞を読み丁寧な字で書き写す) 14 函館の「ゴミ出し方法」をまとめる(函館のゴミ出し方法について学び内容をまとめる) 15 自分の写真を説明する(各自写真を持ってきて写真の説明文を作り発表する)						
教本・参考図書				評価方法		
・ 日本語能力試験問題 ・ 新聞記事 ・ 筆・下敷き・硯(小皿)・文鎮・半紙(1人20枚程度) ・ かな用墨(30人で1～2本)・色紙				・ 変体仮名シート 10点 ・ 小作品(かな書道) 10点 ・ 提出文章 80点 (トーク番組シナリオ、縦書きのお礼の手紙、新聞の書き写し、ゴミ出し説明文、写真説明文)		
留意事項						
・ 提出物は丁寧な字で書くことを心がけること。雑字は減点対象とします。 ・ 積極的な発言を心がけ、わかりやすい言葉ではなすこと。						

教科名	ソーシャルマナー	時 期	1年 前期	担当者	小林 恵理子	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義・演習			
概 要 ・ ビジネスマナーを身に付け、社会人として必要な知識・技能を習得する ・ 人に与える印象の重要性がわかる ・ 対人スキルについて理解する						
到達目標 ・ 社会人として必要なビジネスマナースキルを身に付け、実践することができる ・ 挨拶を基本に、対人スキルについて理解し、実践できる						
計画・(内容) 1 ビジネスマナーの基本や社会人基礎力とは何かを理解する 2 第一印象の重要性、身だしなみについて 3 挨拶、態度、表情、しぐさ、お辞儀について実技を交えて習得する 4 社会人としての言葉遣い・敬語・クッション言葉 5 始業・終業・離席のマナー 6 報告・連絡・相談の仕方とポイント 7 電話対応の基本 8 接遇対応						
教本・参考図書 改訂版 ビジネスマナー基本テキスト				評価方法 筆記試験100点		
留意事項 ・ 受け身にならず積極的に参加すること						

教科名	キャリアデザイン	時 期	1年 前期	担当者	渡邊恵里 木村綾子・三國絵里 竹山美波・宮城若子 東清美・長尾麗 大川はづき・久保田奏恵 佐々木朋子・高橋綾香 Mie Kato Choe	実務・一般 歯科衛生士		
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義・演習					
概 要								
・ 本授業では歯科衛生士としての将来を展望し、働き方やワークライフバランスを意識したキャリアデザインについて学ぶ								
・ 歯科衛生士が活躍する様々な場所やライフスタイルで勤務している歯科衛生士の講話を通じて、自分自身の価値観や歯科衛生士としての生き方を考え、将来のビジョンと目標を持って学業に取り組むことができるようになることを目的とする								
到達目標								
・ 歯科衛生士の多様な働き方を理解する								
・ ワークライフバランスの重要性を認識し、将来の目標を見据えたキャリアプランを考えることができる								
・ 自己を客観的に見つめ、歯科衛生士としての将来や学業に目標を持つことができる								
計画・(内容)								
1	歯科衛生士の仕事と役割、活躍の場				渡邊			
2	歯科衛生士による講話①(歯科医院/訪問/病院)				木村・三國・竹山・渡邊			
3	歯科衛生士による講話②(行政/ケアマネ・包括/企業)				宮城・東・長尾・渡邊			
4	歯科衛生士による講話③(様々な働き方)				大川・久保田・佐々木・高橋・渡邊			
5	自己理解・分析(私ってどんな人、働き方について考える)				渡邊			
6	歯科衛生士による講話④(海外で活躍する歯科衛生士)				Choe・渡邊			
7	キャリアプランを考える グループワーク(強み・弱み、将来について)				渡邊			
8	キャリアプラン、ワークライフバランスについて考える(レポート)				渡邊			
	(目標・今の自分の課題・在学中に何を身につけるか)							
教本・参考図書 ワークシート配布					評価方法 レポート提出 100点			
留意事項								
・ 受け身にならず積極的に参加すること								
・ グループワークでは積極的に意見交換すること								

教科名	解剖・生理	時 期	1年 前期・後期	担当者	加藤 元康	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	3 (45)	形 態	講義		松田 泰樹	実務・一般	理学療法士
概 要							
・解剖学及び生理学は医学の中では基礎医学の一つとして最も基本的な学問であると同時に、医療関係に従事する場合には必ず学ばなければならない科目である。解剖学は正常状態における人体各部の形態及び構造を、また生理学ではそれらの機能を対象としている。さらに解剖学の一分野として組織学と発生学があり、これらを学ぶことにより各組織の微細な構造や人体発生の過程、遺伝情報及び、その成り立ちを理解することが可能になる。歯を含めた口腔内変化と内臓諸器官の機能上の変化や異常との関連がしばしば認められ、これらを検討、理解する上で解剖学や生理学に関わる知識は特に必要となる。(加藤) ・歯科衛生士が対象とする口腔は独立した器官ではなく、全身の一部である。全身の主要な骨格構造はどのように成り立っているのか、その骨格を動かすためには筋はどのように働いているのか、基本的な知識を身につける。(松田)							
到達目標							
・教科書の各章の冒頭に掲げられているが、これらのうちで特に重要な項目についての理解ができる(加藤) ・骨の基本構造と連結様式を概説できる。(松田) ・骨の形成・吸収・改造現象(リモデリング)を概説する。(松田) ・筋の種類と特徴を説明できる。(松田) ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる。(松田)							
計画・(内容)							担当
1 組織と発生 ①							加藤
〔 細胞の構造と機能(特に細胞膜及び細胞内小器官について) 細胞分裂と細胞の寿命について							
2 組織と発生 ②							加藤
人体を構成する組織及びそれらの構造・機能上の特徴について							
3 組織と発生 ③							加藤
〔 精子・卵子の発生と減数分裂 染色体、核酸(DNA,RNA)と遺伝情報について							
4 組織と発生 ④							加藤
〔 受精、着床及び受精卵分裂と胚葉形成について 胎児の成長と器官の発生について							
5 骨格系(骨の機能と構造、結合)							松田
6 骨格系(体幹骨の形態、上肢・下肢の種類と形態)							〃
7 筋と運動(主動作筋、筋による運動、筋繊維の種類)							〃
8 筋と運動(骨格筋と心筋・平滑筋の構造と収縮機序、運動単位)							〃
9 消化・吸収 ①							加藤
消化管及び、消化腺の経路及び基本構造							
10 消化・吸収 ②							加藤
消化器系各部における消化と吸収について							
11 循環系							加藤
〔 体循環と肺循環について 心臓及び血管系の構造・機能について 血圧、心電図について							
12 血液							加藤
〔 血液の機能 血液の成分及び各々の成分の機能 血液凝固、出血性素因について 血液型、輸血について リンパ系について							
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学				前期 加藤先生 70点 筆記試験90%、小テスト10%			
				松田先生 30点 筆記試験			
				後期 加藤先生 100点 筆記試験90%、小テスト10%			
				※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする			
留意事項							

教科名	解剖・生理	時 期	1年 前期・後期	担当者	加藤 元康	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	3 (45)	形 態	講義		松田 泰樹	実務・一般	理学療法士
概 要							
解剖学及び生理学は医学の中では基礎医学の一つとして最も基本的な学問であると同時に、医療関係に従事する場合には必ず学ばなければならない科目である。解剖学は正常状態における人体各部の形態及び構造を、また生理学ではそれらの機能を対象としている。さらに解剖学の一分野として組織学と発生学があり、これらを学ぶことにより各組織の微細な構造や人体発生の過程、遺伝情報及び、その成り立ちを理解することが可能になる。歯を含めた口腔内変化と内臓諸器官の機能上の変化や異常との関連がしばしば認められ、これらを検討、理解する上で解剖学や生理学に関わる知識は特に必要となる。							
到達目標							
教科書の各章の冒頭に掲げられているが、これらのうちで特に重要な項目についての理解ができる							
計画・(内容)							担当
13 神経系 ① 神経系の分類と、その構成・機能について(特に中枢神経と体性神経・自律神経の役割りとその違いについて)							加藤
14 神経系 ② 神経細胞の興奮とその伝導について							加藤
15 呼吸 ① 呼吸器系の構造と機能について 呼吸運動と換気の仕組みについて							加藤
16 呼吸 ② O ₂ とCO ₂ の運搬について 肺気量、換気量及び呼吸の調節について							加藤
17 感覚 ① 感覚の分類と一般的性質について 皮膚と粘膜の構造と感覚装置について							加藤
18 感覚 ② 特殊感覚器とよばれる器官の種類と概要							加藤
19 排泄 ① 〔 排便の機序 〔 発汗及び汗腺について							加藤
20 排泄 ② 〔 排尿の意義 〔 排尿器(泌尿器)の経路と腎における尿生成過程							加藤
21 体温 〔 体温の産生とその調節・変動について 〔 エネルギー代謝について							加藤
22 内分泌 〔 内分泌と外分泌の相違点について 〔 内分泌器官の種類とそれぞれから分泌されるホルモンの作用について 〔 血糖値やカルシウム濃度の調節に関わるホルモンについて							加藤
23 生殖 〔 男性生殖器及び女性生殖器の構造の概要 〔 男性生殖器の機能 〔 女性生殖器にみられる性周期(子宮周期と卵巣周期)について 〔 妊娠と分娩について							加藤
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学				評価方法 前期 加藤先生 70点 筆記試験90%、小テスト10% 松田先生 30点 筆記試験 後期 加藤先生 100点 筆記試験90%、小テスト10% ※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする			
留意事項							

教科名	生化学	時 期	1年 後期	担当者	川合 祐史	実務・ 一般
単位(時間数)	1(15)	形 態	講 義			
概 要 生化学は、生物の生命現象を化学的に説明しようとする学問であり、口腔内の化学や栄養学の基礎を学ぶ科目である。生体を構成する要素や栄養素を化学的にとらえ、その構造や働きを理解して説明できるようになることが目標である。本講義では、人体の構成要素、糖質・脂質・タンパク質・核酸の構造と代謝、酵素の種類と作用、恒常性を維持する仕組みについて学ぶ。						
到達目標 1. 人体を構成する要素を理解し、説明できる 2. 栄養素の消化・吸収・代謝を理解し、説明できる 3. 酵素の種類と作用を理解し、説明できる 4. 生体の恒常性を維持する仕組みを理解し、説明できる						
計画・(内容) 1 人体の構成要素(細胞・生体における水・生体成分と栄養素) 2 糖質の構造 (単糖類・二糖類・多糖類) 脂質の構造 (脂肪酸・中性脂肪・リン脂質・ステロール) 3 アミノ酸・タンパク質の構造(タンパク質の加水分解・アミノ酸の代謝分解) 酵素の役割(酵素反応のメカニズム) 消化と吸収(消化酵素の作用と吸収メカニズム) 4 エネルギー代謝とATP(エネルギー代謝の全体像) 糖質の代謝 (解糖・クエン酸回路・電子伝達系) 5 糖質の代謝 (グリコーゲンの合成と分解) 脂質の代謝 (脂肪酸の酸化・脂肪の合成・糖質の代謝との関連性) 6 アミノ酸・タンパク質の代謝 (アミノ酸の分解・糖質の代謝との関連性) 7 核酸の構造とタンパク質の合成(セントラルドグマ:遺伝情報の複製、転写、翻訳) 8 生体の恒常性を維持する仕組み(恒常性とは・ホルモン系と自律神経系) 全体のまとめ						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学				評価方法 小テスト(20%)と筆記試験(80%)を総合して評価する		
留意事項 ・必要に応じて、資料を配付するので必ず綴じておくこと ・毎回授業内容に関する小テストを実施する。次授業回で小テスト内容の解説を行う。						

教科名	口腔組織	時 期	1年 前期	担当者	佐藤 孝圭	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要						
歯科衛生士として治療の対象となる組織の構造と機能を学ぶ。						
到達目標						
1 歯科臨床の基礎となる歯・歯周組織の構造がわかる 2 学んだ知識と歯科臨床が直結してイメージできる						
計画・(内容)						
1 顔面と口腔の発生（歯や歯周組織の元はどこから現れるか） 2 顔面と口腔の発生（顔面、口腔の異常はどのように起きるか） 3 歯と歯周組織の発生（歯提と歯胚の形成） 4 歯と歯周組織の発生（鍾状期の歯胚） 5 歯および歯周組織の構造と機能（エナメル質） 6 歯および歯周組織の構造と機能（象牙質・歯髄複合体） 7 歯および歯周組織の構造と機能（セメント質、歯根膜、歯槽骨） 8 歯および歯周組織の構造と機能（歯肉、口腔粘膜）						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				評価方法 筆記試験 100点		
留意事項						

教科名	口腔生化学	時 期	1年 後期	担当者	降旗 友和	実務・一般 歯科医師												
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義															
概 要 ・主たる口腔の組織である歯の構成成分を学び、エナメル質、象牙質、骨、歯の石灰化などについて学ぶ。 ・脱灰・再石灰化、唾液の組成や作用を学ぶ。プラーク・ペリクル・歯石について学び、プラークコントロールの重要性を理解する。 ・う蝕や歯周疾患の機序を学び、その対策や生体防御機構について学ぶ。 ・う蝕の原因の一つである糖について、また代用甘味料について学ぶ。 ・カルシウム・リン酸イオンの生体内での状態を学び、脱灰、再石灰化にどのようにかかわっているのか学ぶ。																		
到達目標 <table><tr><td>1 結合組織の組成と機能を説明できる</td><td>7 歯の脱灰と再石灰化を説明できる</td></tr><tr><td>2 歯の無機成分を説明できる</td><td>8 唾液の無機成分と有機成分の種類を述べる</td></tr><tr><td>3 歯の有機成分を説明できる</td><td>9 唾液の無機成分の作用を説明できる</td></tr><tr><td>4 血清中のカルシウムとリン酸の濃度が説明できる</td><td>10 唾液の有機成分の作用を説明できる</td></tr><tr><td>5 歯と骨の石灰化を説明できる</td><td>11 う蝕におけるデンタルプラークの関わりを説明できる</td></tr><tr><td>6 血清カルシウム調節を説明できる</td><td>12 歯周疾患におけるデンタルプラークの関わりを説明できる</td></tr></table>							1 結合組織の組成と機能を説明できる	7 歯の脱灰と再石灰化を説明できる	2 歯の無機成分を説明できる	8 唾液の無機成分と有機成分の種類を述べる	3 歯の有機成分を説明できる	9 唾液の無機成分の作用を説明できる	4 血清中のカルシウムとリン酸の濃度が説明できる	10 唾液の有機成分の作用を説明できる	5 歯と骨の石灰化を説明できる	11 う蝕におけるデンタルプラークの関わりを説明できる	6 血清カルシウム調節を説明できる	12 歯周疾患におけるデンタルプラークの関わりを説明できる
1 結合組織の組成と機能を説明できる	7 歯の脱灰と再石灰化を説明できる																	
2 歯の無機成分を説明できる	8 唾液の無機成分と有機成分の種類を述べる																	
3 歯の有機成分を説明できる	9 唾液の無機成分の作用を説明できる																	
4 血清中のカルシウムとリン酸の濃度が説明できる	10 唾液の有機成分の作用を説明できる																	
5 歯と骨の石灰化を説明できる	11 う蝕におけるデンタルプラークの関わりを説明できる																	
6 血清カルシウム調節を説明できる	12 歯周疾患におけるデンタルプラークの関わりを説明できる																	
計画・(内容) <table><tr><td>1 歯と歯周組織の概論 結合組織(結合組織の組成と機能・プロテオグリカン・コラーゲン合成)</td></tr><tr><td>2 歯の組成(歯の無機成分・有機成分)</td></tr><tr><td>3 硬組織の生化学(血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組みの違い)</td></tr><tr><td>4 骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化(骨芽細胞と破骨細胞・血清カルシウム調節ホルモン)</td></tr><tr><td>5 唾液の生化学概論(唾液の組成と機能)</td></tr><tr><td>6 唾液の無機質・有機質(それぞれの組成と機能)</td></tr><tr><td>7 プラークの生化学概論(プラークの生物活性と種類・プラークの形成・バイオフィルム・う蝕発生機構)</td></tr><tr><td>8 プラークによる口臭発生機構・歯周疾患発生機構(細菌活性・生体防御機構と炎症反応)</td></tr></table>							1 歯と歯周組織の概論 結合組織(結合組織の組成と機能・プロテオグリカン・コラーゲン合成)	2 歯の組成(歯の無機成分・有機成分)	3 硬組織の生化学(血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組みの違い)	4 骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化(骨芽細胞と破骨細胞・血清カルシウム調節ホルモン)	5 唾液の生化学概論(唾液の組成と機能)	6 唾液の無機質・有機質(それぞれの組成と機能)	7 プラークの生化学概論(プラークの生物活性と種類・プラークの形成・バイオフィルム・う蝕発生機構)	8 プラークによる口臭発生機構・歯周疾患発生機構(細菌活性・生体防御機構と炎症反応)				
1 歯と歯周組織の概論 結合組織(結合組織の組成と機能・プロテオグリカン・コラーゲン合成)																		
2 歯の組成(歯の無機成分・有機成分)																		
3 硬組織の生化学(血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組みの違い)																		
4 骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化(骨芽細胞と破骨細胞・血清カルシウム調節ホルモン)																		
5 唾液の生化学概論(唾液の組成と機能)																		
6 唾液の無機質・有機質(それぞれの組成と機能)																		
7 プラークの生化学概論(プラークの生物活性と種類・プラークの形成・バイオフィルム・う蝕発生機構)																		
8 プラークによる口臭発生機構・歯周疾患発生機構(細菌活性・生体防御機構と炎症反応)																		
教本・参考図書 <table><tr><td>歯科衛生学シリーズ</td><td>人体の構造と機能2</td><td>栄養と代謝</td></tr><tr><td>歯科衛生学シリーズ</td><td>栄養と代謝</td><td></td></tr></table>				歯科衛生学シリーズ	人体の構造と機能2	栄養と代謝	歯科衛生学シリーズ	栄養と代謝		評価方法 筆記試験 100点								
歯科衛生学シリーズ	人体の構造と機能2	栄養と代謝																
歯科衛生学シリーズ	栄養と代謝																	
留意事項 ・配布されたプリント及び参考資料・復習問題は予習復習となるため、指示に従い講義時間外に必ず行うこと ・プリントの課題や提出は期日を厳守すること																		

教科名	口腔解剖	時期	1年 前期	担当者	河村 和之	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形態	講義		岩井 祐司	実務・一般 歯科医師
概要						
・ 口腔解剖学は歯科臨床における基礎であるため、頭部および顔面部の骨、筋及び神経等の解剖学的知識を習得する。さらに単に構造だけでなく機能を理解することを目的とする。(河村)						
・ 口腔付近の動脈、静脈、リンパ節、神経のつながりを学ぶ。(岩井)						
到達目標						
1 頭部、顔面部および口腔の解剖学的名称がわかる。(河村)						
2 頭部、顔面部ならびに口腔を構成する骨と筋の名称およびそれらの機能について理解する。(河村)						
3 脳神経12対のうち、頭部・顔面部および口腔に関わる神経の名称および走行、さらに機能について説明できる。(河村)						
4 全身の関節の中でも特殊な顎関節の構造および機能について説明できる。(河村)						
5 頭頸部の動脈、静脈を説明できる。(岩井)						
6 頭頸部のリンパ節のつながりを説明できる。(岩井)						
7 頭頸部の神経のつながりを説明できる。(岩井)						
計画・(内容)						担 当
1 頭蓋・顔面、特に口腔内を詳細に解剖学的名称を学ぶ。						河村
2 頭蓋骨・顔面骨についてシェーデルを用い、構造を学ぶ。 小テスト①						〃
3 頭蓋骨・顔面骨特に口腔の発生について学ぶ。 小テスト②						〃
4 口腔を構成する骨についてシェーデルを用い、構造および機能を学ぶ。 小テスト③						〃
5 頭蓋・顔面、特に顎関節においては、骨に付着する筋およびその機能に関わる神経走行について学ぶ。 小テスト④						〃
6 脳神経12対について学ぶ。						〃
7 心臓(口腔付近に分布する脈管系)						岩井
8 ②知覚神経						河村
③運動神経						
④特殊神経(涙腺分泌・唾液分泌・味覚)						
⑤以上の神経と中枢からの走行および筋および臓器機関への分布 小テスト⑤						
9 動脈(総頸動脈・内頸動脈・外頸動脈・舌動脈・顔面動脈・後頭動脈・後耳介動脈・浅側頭動脈・顎動脈) 小テスト(1)						岩井
10 静脈(頭頸部の動脈と静脈の違い・頭頸部の主な枝) 小テスト(2)						〃
11 リンパ(頭部のリンパ節・頸部のリンパ節・扁桃) 小テスト(3)						〃
12 神経①(脳神経・自律神経)						〃
13 神経②(三叉神経) 小テスト(4)						〃
14 神経③(顔面神経) 小テスト(5)						〃
15 神経④(舌咽・舌下神経)						〃
教本・参考図書				評価方法		
歯科衛生学シリーズ				筆記試験(40点)小テスト5回(10点) 計 50点 【河村】		
歯・口腔の構造と機能				筆記試験(40点)小テスト5回(10点) 計 50点 【岩井】		
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				合計 100点		
留意事項						

教科名	歯牙解剖	時 期	1年 前期	担当者	澤木 淳	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義		渡邊 佳子	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
・ 歯の記号や表示法について学ぶ。 ・ 乳歯・永久歯の個々の歯牙の特徴を理解し、歯種の鑑別ができるようになる。						
到達目標						
1 歯の表示法や記号について説明できる(澤木・渡邊) 2 歯種を鑑別できる(澤木・渡邊) 3 歯列と咬合について説明できる(澤木) 4 歯の形態を歯種別に説明できる(澤木・渡邊) 5 歯の形態異常について説明できる(澤木・渡邊)						
計画・(内容)						担 当
1 総論 (歯の種類と数・歯式・名称・用語) 2 上顎・下顎前歯部 (形態・特徴) 3 上顎・下顎小白歯部 (形態・特徴) 4 上顎・下顎大白歯部 (形態・特徴) 5 乳歯・永久歯(形態・特徴) 6 乳歯(形態・特徴) 7 乳歯・永久歯(形態・特徴) 8 歯の異常・歯列と咬合						澤木 澤木 澤木 澤木 渡邊 澤木 渡邊 澤木
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学				評価方法 筆記試験 (60点) 【澤木】 筆記試験 (40点) 【渡邊】 合計 100点		
留意事項						
・ 毎回、前回の復習事項を口頭試問します。予習復習を欠かさない事 (澤木)						

教科名	口腔生理	時 期	1年 後期	担当者	近藤 英司	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義				
概 要							
口腔生理学は、「食べる・飲む」「感じる」「話す」「意思表示する」といった、生きるために非常に重要な口腔の機能が いかに営まれているかを学ぶ。							
到達目標							
口腔と顎顔面領域の保険と医療に従事する歯科衛生士にとって、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識 を習得し、歯と口腔の健康づくりへと繋げる。							
計画・(内容)							担 当
1. 歯・口腔・顔面の感覚							近藤
2. 味覚と嗅覚							//
3. 咬合と咀嚼・吸啜							//
4. 嚥下と嘔吐							//
5. 摂食嚥下リハビリに関して							//
6. 発生・発語							//
7. 唾液に関して							//
8. オーラルフレイルと口腔生理学							//
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織顎・口腔生理学				評価方法 小テスト(5点×8回)と筆記試験(60点) 合計100点			
留意事項							

教科名	病理学	時期	1年 後期	担当者	富樫 信	実務・一般 臨床検査技師
単位(時間数)	2 (30)	形態	講 義		勝又 護	実務・一般 歯科医師
概 要						
・病理学は病気の原因、進展および転帰を明らかにし、病気の予防や治療の基礎となる知見を統合する学問である。病理学の講義を通じて病理学総論を理解し、歯科診療の場において的確に患者に対応するための知識を習得する(富樫) ・口腔領域の歯牙及び歯周組織に生ずる疫病の原因及び経過を理解し、それらの病気の本態を究明する。(勝又)						
到達目標						
1 種々発生する疾病や病的状態の原因、発生機序、進展および転帰を学び、病理学の基本知識を習得する。(富樫) 具体的には、下記に記した計画・内容1～7の項目について学び、知識習得を図る。(富樫) 2 口腔病変の診断・治療の知識を理解し臨床において適切な指導及び処置を行うための基礎知識を習得する。(勝又)						
計画・(内容)						担 当
1 病理学序論と病因論 (疾病の概念、病因と病態に関する知識を習得する) 2 遺伝性疾患と奇形 (各遺伝性疾患を学び、奇形の原因や発生機序を学ぶ) 3 循環障害 (充血とうっ血の違いを学び、虚血、出血の原因、血栓や塞栓の形成機序、梗塞の成因を学ぶ) 4 代謝障害と退行性病変 (細胞・組織の変性、萎縮、壊死を学び、アポトーシスとネクローシスの違いを学ぶ) 5 増殖と修復 (肥大、増生、化生、再生について学び、創傷の治癒過程を学ぶ) 6 炎症と免疫応答異常 (炎症の病因を学び、免疫やアレルギーについて学ぶ) 7 腫瘍 (腫瘍の定義を学び、良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、腫瘍の種類や発育、浸潤、転移についてを学ぶ) 8 口腔病理とは・歯の発育異常(概論・歯の発育異常の種類と好発部位) 9 歯の損傷と着色・沈着物(分類と組織像) 10 う蝕(う蝕の疫学、発生、分類、組織像) 11 象牙質・歯髄複合体の病態(歯髄炎の原因、分類、病理像) 12 歯周組織の病態(歯周組織の病態と成り立ち) 13 口腔粘膜の病変、唾液腺の病変(口腔粘膜、唾液腺の種類と好発部位) 14 口腔領域の腫瘍、口腔癌、口腔組織の変化(腫瘍、口腔癌の定義と分類) 15 口腔領域の奇形と嚢胞、顎骨の病変、口腔組織の加齢変化 (各腫瘍の定義と分類、口腔癌の定義と分類、歯周組織の加齢変化)						富 樫 〃 〃 〃 〃 〃 〃 勝 又 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
教本・参考図書				評価方法		
歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学				筆記試験 (50点) 【富樫】		
口腔病変の組織診断 山本浩嗣・武田泰典				筆記試験 (50点) 【勝又】		
よくわかる病理学 専門基礎講座 高橋徹				合計 100点		
留意事項						
・講義終了後、確認問題を提示し知識の整理や要点を確認し習得の効率化を図る。確認問題は繰り返し行い、知識を身につけるよう努めること。(富樫) ・講義の最初に復習の小テストを行い、理解度を確認する。(勝又) ・講義の最後に国家試験の問題を解かせ、早めに国試対策を行う。(勝又)						

教科名	薬理学	時 期	1年 後期	担当者	篠田 雅和	実務・一般	薬剤師
					藤嶋 一樹	実務・一般	薬剤師
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講義		林 友翔	実務・一般	歯科医師
概 要 ・薬の作用を理解し、体における薬の働きを知る。(篠田・藤嶋) ・歯科の临床上、重要な薬物の薬理作用とその作用機序、薬物動態、臨床的応用と副作用、毒性並びに薬剤の取り扱い方法を学習する。(林)							
到達目標 1 薬の基本的知識がわかり、薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解することができる(篠田・藤嶋) 2 う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。(林) 3 歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。(林) 4 歯周治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用・洗口液について説明できる。(林) 5 服薬に関する一般的事項を説明できる。対象者別の服薬指導を説明できる。(林)							
計画・(内容)							担 当
1 総論① (薬物の作用、薬物動態)							篠田
2 総論② (薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用・有害作用)							篠田
3 総論③ (医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品)							篠田
4 ビタミン剤とホルモン剤 末梢神経系に作用する薬物 (種類・副作用)							篠田
5 中枢神経系に作用する薬物 (種類・副作用)							藤嶋
6 循環器・腎臓・呼吸器・消化器に作用する薬物 (種類・副作用)							藤嶋
7 血液・免疫・悪性腫瘍・代謝性疾患に作用する薬物 (種類・副作用)							藤嶋
8 炎症と痛み作用する薬物 (種類・副作用)							篠田
9 局所麻酔薬と感染症に作用する薬物 (種類・副作用)							篠田
10 歯科薬理学概論・感染症と薬物・代謝性疾患と薬物 (糖尿病、骨粗鬆症、脂質異常治療薬)							林
11 う蝕の予防に用いる薬物 (フッ化物の応用法と代用甘味料)							林
12 消毒薬、漢方医学(作用・種類)、全体のまとめ							篠田
13 歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物							林
14 歯周治療に用いる薬物							林
15 服薬指導 ・ 悪性腫瘍と薬物							林
※2～9、12は小テストを行います(篠田・藤嶋) ※10～11、13～15は確認問題を行います(林)							
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 歯科衛生学シリーズ 薬理学 配布プリント				評価方法 筆記試験(55%) 小テスト(45%) 合計70点 【篠田・藤嶋】 筆記試験(30点) 【林】 合計100点満点			
留意事項 ・2回目の講義より行なう小テストは、1つ前の授業内容について実施し、毎回5点が評価の総点数に含まれます。 毎回授業の復習をするようにしてください。(篠田・藤嶋)							

教科名	微生物学	時 期	1年 後期	担当者	澤辺 桃子	実務・ 一般
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講 義		永井 大輝	実務 ・一般 歯科医師
概 要						
・ 口腔疾患の多くが微生物を原因とする感染症であることから、これらを学ぶ前段階として、微生物が身近な存在であることを実感し、微生物の基本的性状を理解するとともに、病原微生物の病原性と病態、感染と発症のメカニズム、化学療法の原理、生体防御機構を学ぶ。(澤辺) ・ 口腔二大疾患である齲蝕症と歯周病は口腔内微生物による感染症であるが、それらの疾患が口腔という特殊な環境下で如何にして発症してくるのかを理解する。さらに、口腔感染症と全身疾患の関わりを知ることにより、口腔の健康の大切さを学ぶ。(永井)						
到達目標						
1 微生物の種類や具体的名称を列举し、各々の基本的性状を説明できる(澤辺) 2 微生物の病原性を把握し、感染と発症のメカニズム、宿主の抵抗性、化学療法の原理を説明できる(澤辺) 3 生体防御機構である免疫の基本的知識とワクチン及びアレルギーについて説明できる(澤辺) 4 歯科衛生士業務としての予防処置、口腔衛生指導及び院内感染予防のためのスタンダードプレコーションの実践に必要な基礎知識がわかる(永井)						
計画・(内容)						担 当
1 疾患と微生物 (微生物とは何か、微生物の種類と発見の歴史を学び、身の周りの微生物の培養をおこなう)						澤 辺
2 微生物の基本的性状、細菌培養と顕微鏡観察 (微生物の基本的性状、培養と観察法、顕微鏡の種類について学ぶ)						〃
3 化学療法 (微生物の基本的性状と化学療法薬との関係性を理解し、使用目的とその原理を学ぶ)						〃
4 感染の種類と経路、滅菌・消毒方法 (微生物の種類と状況による感染経路と発症過程、感染防止に必要な滅菌と消毒の種類とその原理を学ぶ)						〃
5 微生物の病原性(1)病原性細菌の種類と病原性 (細菌の感染機構と病原性について把握し、各病原性細菌の形態学的特徴と基本的性状を学ぶ)						〃
6 微生物の病原性(2)ウイルスとその他の微生物(プリオンを含む)の種類と病原性 (ウイルスやその他の微生物の感染機構と病原性について把握し、各病原微生物の形態学的特徴と基本的性状を学ぶ)						〃
7 宿主防御機構 (宿主の抵抗性を理解し、免疫の種類、免疫担当細胞の種類と役割、抗原と抗体、サイトカインについて学ぶ)						〃
8 免疫機構とアレルギー (抗原抗体反応を利用した検査法、ワクチン、アレルギーについて学ぶ)						〃
9 口腔細菌叢 (成り立ちと遷移、部位別細菌叢)						永 井
10 バイオフィームとしてのプラーク (プラークの形成機序)						〃
11 バイオフィームとしてのプラーク、口腔感染症 (齲蝕)						〃
12 口腔感染症 (歯肉感染症、歯周病)						〃
13 口腔感染症 (歯周病)、その他の口腔感染症						〃
14 その他の口腔感染症、口腔外感染症と院内感染症対策						〃
15 院内感染対策と滅菌消毒						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版				評価方法 筆記試験 50点 【澤辺】 筆記試験30点 小テスト20点 【永井】 合計 100点		
留意事項						
・ 復習および予習となる問題プリントを配布するので、講義時間外に各自で解答しておくこと (澤辺) ・ 毎回授業の最後に小テストを行います(永井)						

教科名	保健生態学Ⅰ	時期	1年 前期	担当者	奥ひろみ	実務・一般・歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形態	講義			
概要 保健生態学は、衛生学・公衆衛生学および口腔衛生学を一連のものとして捕らえた学問です。その内容は3編に分割して、Ⅰ編『健康を左右する環境』、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』、Ⅲ編『健康に関わる地域の役割』となっております。この授業では、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』を中心に学びます。内容は人々の歯、口腔の健康と歯科疾患の予防に関わるセルフケア能力を高めるために、指導的役割となる歯科衛生士として必要な知識を整理する。また、予防歯科の概念と歯科疾患の予防、ライフステージごとの口腔管理について導入的に学びます。						
到達目標 1. 口腔の健康の定義を説明できる 2. 歯・口腔の健康保持増進する手段について概説できる 3. 歯・口腔の機能について説明できる 4. 口腔と全身の健康との関連について説明できる						
計画・(内容) 《Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防》 第1章 総論 1. 『歯・口腔の健康と予防』、健康保持増進のための手段 / 歯・口腔の構造(歯の構造について学ぶ) 2. 歯・口腔の構造について (歯周組織、口腔粘膜、舌、顎関節の順に学ぶ) 3. 歯・口腔の構造について (歯周組織、口腔粘膜、舌、顎関節の順に学ぶ) 4. 唾液腺について (種類、分泌、性状・成分、機能について学ぶ) 5. 唾液腺について (種類、分泌、性状・成分、機能について学ぶ) 6. 歯・口腔の発生、成長、発育について (歯や顎と歯列咬合について、必要な栄養素やホルモンを学ぶ) 7. 歯・口腔の形成異常について (歯の数や形態、色、位置や咬合について正常像との比較をしながら学ぶ) 8. 歯・口腔の機能について (咀嚼と嚥下、味覚や発音を学ぶ。また、歯科疾患と全身の健康との関連を学ぶ) 9. 口腔の健康と全身の健康 第2章 歯科疾患の疫学 10. 歯科疾患の疫学的特性 (う蝕、歯周疾患、不正咬合、顎関節症、口腔癌、粘膜疾患) 第4章 う蝕の予防 11. う蝕発生と進行のメカニズムについて (う蝕発生の病院論や進行のメカニズムとその症状を学ぶ) 12. う蝕の発生要因について (宿主、病原要因、環境要因、のそれぞれの要因と予防について学ぶ) 13. う蝕の予防法 (段階別の予防手段から、う蝕予防を考える) 第7章 その他の疾患・異常の予防 14. 不正咬合・口臭の予防 (不正咬合や口臭の種類とその原因を理解し、予防法を学ぶ) 15. その他の歯科疾患・異常の予防 (歯の異常や顎関節症、口腔癌など口腔内に起こる異常について学ぶ)						
教本・参考図書 医歯薬出版社 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学				評価方法 筆記試験1回 80点満点 小テスト2回 10点満点×2 合計100点満点にて評価		
留意事項 小テストは授業の第5回、第10回の終了後に実施予定です。 授業の始めに前回の復習問題、授業の終わりに今回の確認問題をそれぞれ行いますが、筆記試験や小テストにも関連するので重要です。						

教科名	歯科衛生学総論	時 期	1年 前期	担当者	澤谷 幸絵	実務・一般
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要 ・歯科衛生活動を実践し口腔の健康を支え全身の健康づくり、QOLの維持に寄与できる保健医療人を目指すための基本的な知識を習得する。 ・予防を専門とする唯一の職種であることを念頭に置き、これから3年間で習得すべき知識、技術、心構え等を確認する。						
到達目標 1 歯科衛生学を説明できる。 2 歯科衛生士の倫理綱領に基づく歯科衛生の実践を理解する。 3 歯科衛生士は、すべてのライフステージにおける口腔健康管理を実践することが使命であることを認識する。						
計画・(内容)						担 当
1【序、1章】歯科衛生学を学ぶにあたって 歯科衛生学の定義と学ぶ目的。 2【2章】歯科衛生の歴史と現況 歯科衛生士誕生の歴史を学び、歯科衛生士の現況と活動する場について。 3【4章】歯科衛生士法と業務 歯科衛生士法に基づく歯科衛生士の業務範囲について。 4【5章①】医の倫理と患者の権利 患者の権利、患者の自己決定権について。 5【5章②】歯科衛生士の倫理綱領 日本歯科衛生士会の倫理綱領について、ケースを用いて考える。 6【6章】歯科衛生実践のための理論 保健行動に関する理論、モデルについて。 7【10、12章】災害時における活動、歯科衛生士の専門職組織 災害時の歯科衛生士の役割と平時からの対策。団体である日本歯科衛生士会について。 8【付】歯科衛生実践の実際 歯科衛生士の活動の場を紹介する。過去の国家試験問題を使つての総まとめ。						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学概論				評価方法 筆記試験 100点		
留意事項 ・ 自己の考えや疑問点などを発言し、積極的に授業に臨む。 ・ 今後の履修科目の基礎となる専門用語を理解し、それらは漢字で書けるように努力する。						

[illegible]

教科名	小児・障がい者歯科	時 期	1年 後期	担当者	本間 康裕	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1(30)	形 態	講義		額賀 真記子	実務・一般	歯科医師
概 要							
- 小児歯科は治療の対象が成長を続ける小児であることから、一口腔内一単位として治療を行い、口腔領域の正常な成長発育を阻害する口腔疾患や異常などを治療、または予防し、発育変化を適切に対応し長期管理を行う。子供や保護者との対応の他、治療並びに予防を進めるためには、歯科衛生士の役割も大きな比重を占める。それら衛生士業務を行うために必要な、小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を学ぶ。(本間) - 身体的、知的あるいは精神的な障がいがある人に対して不安や恐怖、リスクが伴う歯科治療が円滑に行えるよう、歯科衛生士として障がい者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。(額賀)							
到達目標							
- 小児の身体的成長発育、心理的発達が理解できる。(本間) - 歯の発育、歯列・咬合の発育が理解できる。(本間) - 小児う蝕の特徴、う蝕予防が理解できる。(本間) - 小児における歯科疾患、並びに処置(修復、歯内療法、外科、咬合誘導)が理解できる。(本間) - 小児および保護者への対応法が理解できる。(本間) - 障がいの概念を理解し、その種類や歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる。(額賀) - 障がい者の保健・医療・福祉制度を理解する。(額賀) - 障がい者の歯科治療と特殊性について理解し、その対応と歯科治療に必要な注意点を説明できる。(額賀) - 障がい者の口腔衛生管理や摂食嚥下障害と口腔機能管理を説明できる。(額賀)							
計画・(内容)							担 当
1 小児歯科学概論・心身の発育 (発育段階と口腔内の変化について概要的に学ぶ。また、身体発育の特徴および精神発達についても併せて学ぶ。)							本間
2 小児の生理的特徴・顔面頭蓋の発育 (小児のバイタルサインと生理的特徴を学ぶ。また、顔面頭蓋の発育と歯の萌出との関係についても学ぶ。)							〃
3 歯の発育とその異常・歯列咬合の発育と異常 (歯の発育(乳歯・幼若永久歯)および歯列・咬合の発育と異常を学ぶ。)							〃
4 小児の歯科疾患 (小児にみられるう蝕と歯周疾患、軟組織の異常と疾患について学ぶ。)							〃
5 小児期の特徴と歯科的問題点 (乳幼児期・学童期・思春期小児の特徴、留意点と歯科疾患について学ぶ。)							〃
6 小児歯科における診療体系 (小児歯科診療の特徴とその実際について学ぶ。)							〃
7 小児における患者との対応法 (小児歯科における患者との対応法を学ぶ。)							〃
8 診察・検査時の業務・う蝕予防 (小児歯科診療における診察・検査時の歯科衛生士の役割、う蝕の予防法と食生活指導について学ぶ。)							〃
9 小児歯科診療における診療補助・小児の口腔保健管理・歯科診療室の機材と管理 (小児歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を理解し、必要器材とその取り扱いについて学ぶ。) (年齢区分に応じた口腔保健管理について学ぶ。)							〃
10 代表的な障がいの特徴(精神発達障がい・ダウン症候群)							額賀
11 代表的な障がいの特徴(自閉症スペクトラム症・ADHD・LD)							〃
12 代表的な障がいの特徴(てんかん・脳性麻痺・重症心身障がい者)							〃
13 代表的な障がいの特徴(筋ジストロフィー・脊髄小脳変性症・ALS・うつ病・視聴覚障がい・各種行動調整法など)							〃
14 国家試験問題(障がい者歯科問題の考え方)							〃
15 臨床における様々な障がい者に対する症例検討(歯科衛生士としてのかかわり)							〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 あたし研究				評価方法 筆記試験(60点) 【本間】 筆記試験(40点) 【額賀】			
留意事項							

教科名	口腔保健管理Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	三浦 伸子 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	5(150)	形 態	講義・実技・演習			
概 要 口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 1年次は、口腔の基礎知識、う蝕予防・歯周病予防の概念と内容、口腔内情報収集やスクレーリング・歯面清掃・歯面研磨などの基本的な歯科衛生士介入の技術を身につける。						
到 達 目 標						
1.口腔の健康像がわかる 2.う蝕・歯周病の原因およびプロセスを説明できる 3.歯・口腔の健康を増進させるための方法がわかる 4.各種ブラッシング方法を実施できる 5.口腔内情報収集を実施できる 6.ライフステージごとの口腔保健管理を説明できる (乳児・新生児期、幼児期、学齢期) 7.フッ化物の種類、作用機序、取り扱い方法がわかる 8.歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 9.小学生を対象とした個別指導能力を身につける 10.シクルスケーラーを適切に操作できる 11.う蝕活動性試験を説明できる 12.口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる 13.小窩裂溝填塞法を実施できる						
計画・(内容)						担 当
前期 1 概論①(健康の概念、予防の概念) 2 概論②(歯科予防処置・歯科保健指導の定義・考え方・法的位置付け) 3 口腔の基礎知識①(正常な口腔、歯周組織、歯冠と歯根の形態) 4 口腔の基礎知識②(口腔の機能、摂食嚥下の仕組み) 5 う蝕と歯周病の基礎知識(口腔内の付着物・沈着物) 6 マネキン取り扱い演習 7 う蝕とは(う蝕の原因・分類) 8 歯周病とは(歯周病の分類と臨床的特徴、進行プロセス、原因、影響を与える疾患) 9 歯科衛生介入としての歯科保健指導①(歯ブラシ種類、電動歯ブラシ・音波歯ブラシ) 10 歯科衛生介入としての歯科保健指導②(補助用具講義・演習) 11 歯科衛生介入としての歯科保健指導③(ブラッシング方法演習) 12 歯科衛生介入としての歯科保健指導③(ブラッシング方法演習) 13 口腔内の器質的問題の把握①(口腔内の観察、検査項目) 14 歯科衛生介入としての歯科保健指導④(プラーク染め出し演習) 15 ブラッシング方法(実技試験) 16 ブラッシング方法(実技試験) 17 口腔内の器質的問題の把握②(歯面の付着物・沈着物 探針操作・プラーク測定方法①歯垢染色法②エキスプローラー測定方法) 18 口腔内の器質的問題の把握④(歯石、歯周ポケット、プロービング) 19 口腔内の器質的問題の把握③(プラーク染め出し、術者磨き 相互実習) 20 口腔内の器質的問題の把握⑤(歯周組織検査 マネキン実習①) 21 口腔内の器質的問題の把握⑥(歯周組織検査 マネキン実習②) 22 歯周組織検査(実技試験) 23 歯面研磨・歯面清掃①(目的、操作方法、注意事項) 24 歯面研磨・歯面清掃②(上下前歯部 マネキン演習) 25 フッ素の知識(フッ素の一般性状と用語、摂取量とその基準) 26 歯面研磨・歯面清掃③(上下臼歯部 マネキン演習) ※ 演習授業については、科目担当教員(千葉・渡邊・三浦)が指導を行う						三浦 千葉 渡邊 三浦 三浦 千葉 千葉 渡邊 渡邊 三浦 渡邊 渡邊 渡邊 千葉 三浦 千葉 千葉 千葉 千葉 渡邊 渡邊 千葉 渡邊
教本・参考図書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 最新歯科衛生士教本 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版				評価方法 前期 実技試験 (10点×3回実施＝30点) 筆記試験 (70点) 合計100点 後期 実技試験 (10点×2回実施＝20点) 筆記試験 (80点) 合計100点 ※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする		
留意事項 ・ 配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習となるため、指示に従い使用・保管すること ・ 演習の際は、積極的に参加すること ・ 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない ・ 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること ・ 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること						

教科名	口腔保健管理Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	三浦 伸子 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	5(150)	形 態	講義・実技・演習			
概 要 口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 1年次は、口腔の基礎知識、う蝕予防・歯周病予防の概念と内容、口腔内情報収集やスクレーリング・歯面清掃・歯面研磨などの基本的な歯科衛生士介入の技術を身につける。						
到達目標						
1.口腔の健康像がわかる 2.う蝕・歯周病の原因およびプロセスを説明できる 3.歯・口腔の健康を増進させるための方法がわかる 4.各種ブラッシング方法を実施できる 5.口腔内情報収集を実施できる 6.ライフステージごとの口腔保健管理を説明できる (乳児・新生児期、幼児期、学齢期) 7.フッ化物の種類、作用機序、取り扱い方法がわかる 8.歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 9.小学生を対象とした個別指導能力を身につける 10.シックルスクレーラーを適切に操作できる 11.う蝕活動性試験を説明できる 12.口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる 13.小窩裂溝填塞法を実施できる						
計画・(内容)						担 当
27 口腔内の器質的問題の把握(動揺度、口臭) 28 口腔内情報収集相互実習前歯部(歯周組織検査・動揺度) 29 口腔内情報収集相互実習前歯部(歯周組織検査・動揺度) 30 歯面研磨・歯面清掃(実技試験) 31 口腔内情報収集相互実習臼歯部(歯周組織検査・動揺度) 32 口腔内情報収集相互実習臼歯部(歯周組織検査・動揺度) 33 口腔内情報収集・歯科衛生介入(歯周組織検査、歯面研磨・歯面清掃 マネキン実習) 34 フッ化物の応用①(歯面塗布) 35 歯科衛生介入①(フッ化物歯面塗布綿球法 相互実習) 36 歯科衛生介入①(フッ化物歯面塗布綿球法 相互実習) 後期 37 フッ化物の応用②(フッ化物洗口) 38 フッ化物の応用③(歯磨剤) 39 フッ化物の応用③(小窩裂溝填塞) 40 歯科衛生介入②(小窩裂溝填塞法 相互実習) 41 う蝕活動性試験①(意義、条件、目的、種類と特徴) 42 う蝕活動性試験②(患者指導) 43 う蝕活動性試験③(唾液分泌量・緩衝能演習) 44 ライフステージ乳児期・新生児期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 45 ライフステージ幼児期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 46 ライフステージ学齢期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 47 保健行動支援のための基礎知識(行動変容) 48 患者からの情報収集①(医療面接・全身の健康) 49 リーフレットを使用した個人指導①(フッ化物の効果/う蝕予防と食生活) 50 リーフレットを使用した個人指導②(フッ化物の効果/う蝕予防と食生活 演習)						千葉 三浦 千葉 渡邊 千葉 三浦 千葉 三浦 三浦 渡邊 三浦 渡邊 渡邊 千葉 千葉 千葉 三浦 渡邊 千葉 千葉 千葉 三浦 三浦
※ 演習授業については、科目担当教員(千葉・渡邊・三浦)が指導を行う						
教本・参考図書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 最新歯科衛生士教本 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版				評価方法 前期 実技試験 (10点×3回実施＝30点) 筆記試験 (70点) 合計100点 後期 実技試験 (10点×2回実施＝20点) 筆記試験 (80点) 合計100点 ※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする		
留意事項 ・ 配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習となるため、指示に従い使用・保管すること ・ 演習の際は、積極的に参加すること ・ 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない ・ 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること ・ 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること						

教科名	口腔保健管理Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	三浦 伸子 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	5(150)	形 態	講義・実技・演習			
概 要 口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 1年次は、口腔の基礎知識、う蝕予防・歯周病予防の概念と内容、口腔内情報収集やスクレーリング・歯面清掃・歯面研磨などの基本的な歯科衛生士介入の技術を身につける。						
到達目標						
1.口腔の健康像がわかる 2.う蝕・歯周病の原因およびプロセスを説明できる 3.歯・口腔の健康を増進させるための方法がわかる 4.各種ブラッシング方法を実施できる 5.口腔内情報収集を実施できる 6.ライフステージごとの口腔保健管理を説明できる (乳児・新生児期、幼児期、学齢期) 7.フッ化物の種類、作用機序、取り扱い方法がわかる 8.歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 9.小学生を対象とした個別指導能力を身につける 10.シックルスケーラーを適切に操作できる 11.う蝕活動性試験を説明できる 12.口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる 13.小窩裂溝填塞法を実施できる						
計画・(内容)						担 当
51 地域歯科保健指導活動のフィールド①(保育園、幼稚園、小・中・高等学校) 52 学齢期における個人指導①(健康教育の進め方・小学校歯磨き教室 概要) 53 学齢期における個人指導②(小学校歯磨き教室 練習) 54 学齢期における個人指導③(小学校歯磨き教室 練習) 55 学齢期における個人指導④(小学校歯磨き教室 練習) 56 学齢期における個人指導⑤(小学校歯磨き教室 実施) 57 学齢期における個人指導⑥(小学校歯磨き教室 実施) 58 歯周組織検査・学齢期の個人指導(1・3年生合同相互実習) 59 歯周組織検査・学齢期の個人指導(1・3年生合同相互実習) 60 学齢期の個人指導(実技試験) 61 学齢期の個人指導(実技試験) 62 口腔内診査(DMFの分類) 63 口腔内診査(染め出しの方法とPCRの計算) 64 歯科衛生介入④(口腔内診査:DMF・PCR 相互実習) 65 歯科衛生介入④(口腔内診査:DMF・PCR 相互実習) 66 スケーリング(手用スケーラーの種類と操作方法) 67 シックルスケーラーを使用したスケーリング①(上顎前歯部唇側 マネキン演習) 68 シックルスケーラーを使用したスケーリング②(下顎前歯部唇側 マネキン演習) 69 シックルスケーラーを使用したスケーリング③(上前歯部口蓋側 マネキン演習) 70 シックルスケーラーを使用したスケーリング④(下顎歯部舌側 マネキン演習) 71 シックルスケーラーを使用したスケーリング⑤(実技試験) 72 シックルスケーラーを使用したスケーリング(前歯部 相互実習) 73 シックルスケーラーを使用したスケーリング(前歯部 相互実習) 74 フッ化物の計算①(悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出、フッ化物洗口液の調整) 75 フッ化物の計算②(悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出、フッ化物洗口液の調整)						渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 三浦 千葉 千葉 千葉 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 三浦 三浦 三浦 三浦 三浦 渡邊 渡邊 千葉 千葉
※ 演習授業については、科目担当教員(千葉・渡邊・三浦)が指導を行う						
教本・参考図書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 最新歯科衛生士教本 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版				評価方法 前期 実技試験 (10点×3回実施＝30点) 筆記試験 (70点) 合計100点 後期 実技試験 (10点×2回実施＝20点) 筆記試験 (80点) 合計100点 ※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする		
留意事項 ・ 配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習となるため、指示に従い使用・保管すること ・ 演習の際は、積極的に参加すること ・ 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない ・ 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること ・ 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること						

教科名	診療補助Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	渡邊恵里 永橋 茜	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	4 (120)	形 態	講義・実技・演習				
概 要 様々な、ライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 1年生では、診療室での医療安全と感染予防対策の基礎と円滑なチーム医療を行なうための診療の補助業務、患者情報収集、歯科材料や器械の知識や取り扱いについて学び、知識、技術、態度を習得する。							
到達目標 - 診療の補助と介助の違いが説明できる - 歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を説明できる - 各情報収集の方法がわかる - 共同動作の基本(バキューム・ライティング操作、フォーハンド、器具の受け渡し)を実践できる - 感染に応じた対応(消毒・滅菌・廃棄)ができる - スタンダードプレコーションがわかる - 医療事故に適切な対応ができる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材等)の基本的性質を説明できる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材等)の取扱いができる - 小児歯科、障がい者歯科の補助のために必要な治療手順、薬剤・器材の使用方法を習得する							
計画・(内容)						担 当	
前期 1 歯科診療補助総論(歯科診療補助とは、法的位置づけ)、医療安全と感染予防①(医療安全) 2 歯科診療の基礎知識 (診療室、歯科用チェアユニットでの対応) ロールプレイ 3 医療安全と感染予防② (感染予防) 4 医療安全と感染予防② (感染予防) 5 医療安全と感染予防③ (手指衛生、薬品・歯科材料の管理) 6 医療安全と感染予防④ (滅菌と消毒) 7 医療安全と感染予防④ (滅菌と消毒) 8 医療安全と感染予防⑥⑦ (手指衛生演習/滅菌と消毒、廃棄演習/落した場合の対応/滅菌パック) 9 医療安全と感染予防⑥⑦ (手指衛生演習/滅菌と消毒、廃棄演習/落した場合の対応/滅菌パック) 10 医療安全と感染予防⑤ (医療廃棄物の取り扱い) 11 共同動作の基本① (器具の受け渡し、ポジショニングマネキン演習) 12 共同動作の基本② (ユニット操作演習) 13 共同動作の基本③ (バキューム、ライティング、スリーウェイ講義) 14 共同動作の基本③ (バキューム、ライティング、スリーウェイ演習) 15 共同動作の基本④⑤ (ライティング、ポジショニング演習) 16 共同動作の基本④⑤ (ライティング、ポジショニング演習) 17 共同動作の基本⑥⑦ (バキューム、ライティング、ポジショニング相互演習) 18 共同動作の基本⑥⑦ (バキューム、ライティング、ポジショニング相互演習) 19 実技試験① (バキューム挿入位置等) 20 歯科材料の取り扱い (各種印象材について) 21 患者資料の収集 (アルジネート印象材の練和) 22 患者資料の収集 (アルジネート印象材の練和) 23 患者資料の収集 (アルジネート印象材の練和・盛り付け) 24 患者資料の収集 (アルジネート印象材の練和・盛り付け:片顎トレイ) 25 患者資料の収集 (スタディモデルの作製・マネキン演習) 26 患者資料の収集 (スタディモデルの作製・マネキン演習) 27 歯科材料の取り扱い (石膏について) 28 ラバーダム防湿 29 実技試験② (アルジネート印象材の練和・盛り付け)						渡邊 永橋 渡邊 渡邊 永橋 永橋 永橋 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 永橋 永橋 永橋 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 渡邊 渡邊 渡邊	
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 歯科衛生学シリーズ 歯科器械 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学(※) 歯科衛生学シリーズ 障がい者歯科学(※)				評価方法 ※前期50%、後期50%、合計100%として後期成績とする 前期 筆記試験 80点 実技試験 20点 ①② 合計 100点 後期 筆記試験 80点 実技試験 20点 ③④ 合計 100点			
留意事項 - 授業時間内に確認問題を行う場合があります。 - グループワーク及び発表には積極的に参加すること。 - 忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。 - 演習前には始業点検を終了しておくこと。 - 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること。 - 教本 (※)小児歯科・障がい者歯科の診療補助の授業の際に使用します。							

教科名	診療補助 I	時期	1年 前期・後期	担当者	渡邊恵里 永橋 茜	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	4 (120)	形態	講義・実技・演習				
概要 様々な、ライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 1年生では、診療室での医療安全と感染予防対策の基礎と円滑なチーム医療を行なうための診療の補助業務、患者情報収集、歯科材料や器械の知識や取り扱いについて学び、知識、技術、態度を習得する。							
到達目標 - 診療の補助と介助の違いが説明できる - 歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を説明できる - 各情報収集の方法がわかる - 共同動作の基本(バキューム・ライティング操作、フォーハンド、器具の受け渡し)を実践できる - 感染に応じた対応(消毒・滅菌・廃棄)ができる - スタンダードプレコーションがわかる - 医療事故に適切な対応ができる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材等)の基本的性質を説明できる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材等)の取扱いができる - 小児歯科、障がい者歯科の補助のために必要な治療手順、薬剤・器材の使用方法を習得する							
計画・(内容)						担 当	
後期							
30	患者資料の収集	(スタディモデルの作製・石膏注入・トリミング見学)				渡邊	
31	患者資料の収集	(スタディモデルの作製・石膏注入・トリミング見学)				渡邊	
32	患者資料の収集	(スタディモデルの作製・石膏注入・トリミング見学)				渡邊	
33	歯科臨床概論(治療の流れ)					永橋	
34	歯科臨床概論(治療の流れ)					永橋	
35	寒天連合印象・歯肉排除					永橋	
36	寒天連合印象・歯肉排除	(歯肉排除・寒天連合印象マネキン演習)				永橋	
37	寒天連合印象・歯肉排除	(歯肉排除・寒天連合印象マネキン演習)				永橋	
38	実技試験③	(概形印象採得)				永橋	
39	バキューム相互					渡邊	
40	バキューム相互					渡邊	
41	材料の取り扱い	(合着材、仮着材講義)				渡邊	
42	材料の取り扱い	(合着材、仮着材演習)				渡邊	
43	材料の取り扱い	(合着材、仮着材演習)				渡邊	
44	材料の取り扱い	(接着材講義・演習)				永橋	
45	材料の取り扱い	(仮封材講義)				永橋	
46	材料の取り扱い	(仮封材演習)				永橋	
47	寒天連合印象	(寒天連合印象採得・相互演習)				永橋	
48	寒天連合印象	(寒天連合印象石膏注入演習)				永橋	
49	実技試験④	(仮封材練和・ストップングキャリア受け渡し)				永橋	
50	救命(消防)AED 講義					渡邊	
51	救命(消防)AED 演習					永橋	
52	材料の取り扱い	(シリコンラバー印象材講義)				永橋	
53	材料の取り扱い	(シリコンラバー印象材演習)				永橋	
54	材料の取り扱い	(バー・コントラ、タービンの違い)				渡邊	
55	バキューム相互					渡邊	
56	バキューム相互					渡邊	
57	材料の取り扱い	(バー・コントラ、タービンの違い演習)				渡邊	
58	障がい者歯科・小児歯科の診療補助(抑制的対応・乳歯冠・クラウンフォーム講義)					渡邊	
59	障がい者歯科・小児歯科の診療補助(抑制的対応・乳歯冠・クラウンフォーム演習)					渡邊	
60	障がい者歯科・小児歯科の診療補助(抑制的対応・乳歯冠・クラウンフォーム演習)					渡邊	
教本・参考図書				評価方法 ※前期50%、後期50%、合計100%として後期成績とする			
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版				前期	筆記試験	80点	
歯科衛生学シリーズ 歯科器械					実技試験	20点 ①②	合計 100点
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学(※)				後期	筆記試験	80点	
歯科衛生学シリーズ 障がい者歯科学(※)					実技試験	20点 ③④	合計 100点
留意事項 - 授業時間内に確認問題を行う場合があります。 - グループワーク及び発表には積極的に参加すること。 - 忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。 - 演習前には始業点検を終了しておくこと。 - 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること。 - 教本 (※)小児歯科・障がい者歯科の診療補助の授業の際に使用します。							

教科名	介護技術	時 期	1年生 後期	担当者	山 克己	実務・一般	介護福祉士
					三浦 寛子	実務・一般	介護福祉士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義 ・ 演習		小林 美樹	実務・一般	介護福祉士
概 要							
・ 介護技術の基本と実践を通じ介護の基本技術を学ぶ ・ 対象者の自立支援と介護技術実践を学ぶ ・ 観察視点のポイントを学ぶ							
到達目標							
1 対象者の観察ポイントが理解できる 2 福祉用具の扱い方が理解できる 3 対象者に応じた介助方法が理解できる							
計画・(内容)							担 当
1 介護対象者の理解(コミュニケーションの取り方)							山
2 寝床の整え方(ベッドメイキング・シーツ交換)							山・小林・三浦
3 臥床から立位への介助							三浦・小林
4 更衣(端座位での着替え)・小テスト							三浦・小林
5 食事介助(利用者・介助者の体験)							三浦・小林
6 移乗介助 (車いすの名称及び操作)・小テスト							三浦・小林
7 移動(車椅子からユニットへの移乗)							三浦・小林
8 移動(ユニットから車椅子への移乗)・最終テスト							三浦・小林
教本・参考図書				評価方法			
共栄出版株式会社 介護概論・基礎介護技術 レジュメ				小テスト 30点 最終テスト 70点 (事例課題を用いた実践評価)			
留意事項							
・ 体調不良の際は授業前に事前に担当教員に申し出てください (微熱・怪我などある場合) ・ 演習中は授業とは関係のない話は慎む ・ わからない、できないところは時間内で解決できるよう積極的に取り組む							

教科名	臨地・臨床実習	時 期	1年 後期	担当者	実習指導者 (登録者)	実務	歯科医師 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形 態	実習				
概 要 - 臨床の場において歯科医療の実際を学び、治療の流れと歯科衛生士の役割を知る - 学校内で習得した知識を実際の歯科診療に結びつけ、理解を深める - 歯科診療室におけるチーム医療を学ぶ							
到達目標 - 歯科診療の流れ・歯科衛生士の役割がわかる - 患者誘導ができる - 清潔・不潔を理解し、器具の準備・後始末ができる - 基本のバキューム・ライティング操作ができる - 患者やスタッフと良好なコミュニケーションを図る							
計画・(内容) ※ 函館市内、近郊の歯科医院での実習 1日約6時間 ・2月～3月 6日間							
教本・参考図書				評価方法 歯科診療所による評価なし 30時間の出席をすることで単位修得とする			
留意事項 体調管理を心がけ、欠席・遅刻・早退し実習時間が不足した場合は、公欠・忌引に関わらず補講実習を行う 実習中の服装・身だしなみには十分気をつけること 解らないことは積極的に質問し、意欲的に学ぶこと 実習記録については、実習先の歯科医院で見学した内容を記録すること 履修済みの臨床科目については復習しておくこと。また、アルバイトは入れないほうが好ましい							

教科名	体育	時 期	1年 後期	担当者	佐々木 則子	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (30)	形 態	実 技			
概 要						
・健康づくりの基礎知識を理解し、生涯を通じて健康の維持、増進するための実践方法を学ぶ ・現代社会においての運動と正しい姿勢の重要性を学ぶ						
到達目標						
1 エアロビクス、ステップエクササイズ、ダンス他、有酸素運動を実践する 2 筋力アップのトレーニングを実践する 3 ヨガ、ピラティスで柔軟性の向上、体幹の強化、また正しい体の動かし方を学ぶ						
計画・(内容)						担 当
1 姿勢モニタリング (ほぐしとストレッチング、体力テスト)						佐々木
2 ウォーキング、インターバル速歩、筋力トレーニングとストレッチング(上肢)						//
3 リズムウォーク、筋力トレーニングとストレッチング(上肢)						//
4 エアロビックダンス 筋力トレーニングとストレッチング(下肢)						//
5 エアロビックダンス 筋力トレーニングとストレッチング(下肢)						//
6 STEP エクササイズ 体幹トレーニングとストレッチング						//
7 STEP エクササイズ 体幹トレーニングとストレッチング						//
8 ボクシング フィットネス ヨガ						//
9 ボクシング フィットネス ヨガ						//
10 バレトン ヨガ						//
11 バレトン ピラティス						//
12 ダンス ピラティス						//
13 ダンス ピラティス						//
14 復習						//
15 筆記テスト・実技テスト						//
教本・参考図書				評価方法		
公益社団法人日本フィットネス協会発行書籍				筆記試験(30点) 課題提出レポート(20点) 実技試験(50点)		
留意事項						
①ジャージ ②シューズ ③水分 ③タオル ④筆記用具 授業は積極的に参加・発言すること						

教科名	教養講座	時 期	1年 後期	担当者	佐藤 美希	実務 ・ 一般
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義 ・ 演習		今村 美香	実務 ・ 一般
					渡邊 恵里	実務 ・ 一般
概 要 マッサージ・・・正しいスキンケア、マッサージの仕方を学び、歯科衛生士としての清潔感を出し、患者さんに良い印象を与えることができる。 メイク・・・・・・ 基本のメイク技術、自分の肌質に合ったファンデーションの選び方などの知識を習得することで、歯科衛生士としての身だしなみとしてのメイクを施すことができる。 カラー・・・・・・色の基礎を理解し、色が与える外見、心理的効果を学ぶ。また、美しさや好感を持たれる配色・錯視現象から理想の自分を演出する色使いを学ぶ。 ポップづくり・・・歯科医院で販売する口腔衛生用品や口腔ケアグッズなどに添付するポップについて、患者さん目線で分かりやすく、購入意欲の向上に繋がるようなポイントを実践的に学ぶ						
到達目標						
・ 正しいスキンケアやマッサージの方法が分かる ・ 歯科衛生士として好感を持たれるメイクができる ・ 色の基本(色相、明度、彩度、トーン)がわかる。また色が与える印象がわかる。 ・ パーソナルカラーについて理解し、メイク・服・髪などトータルカラーコーディネートができる。						
計画・(内容)						担当
1. 色の基礎、第一印象、色彩心理、内面を知るワーク						今村
2. TPOに合わせた服装、身だしなみ、美しく見せる色の錯視						今村
3. パーソナルカラーについて (似合う色を見つけるポイントやチェック方法、アドバイスetc)						今村
4. 肌について。正しいスキンケア方法。トラブル肌のケア。(講義)						佐藤
5. マッサージの効果・方法(フェイシャル) (実技) ハンドマッサージ(椅子に座ったまま相互で行う) (実技)						佐藤
6. なぜメイクは必要なのか。ベースメイキャップの各アイテムの目的について。(講義)						佐藤
7. 自分の肌質に合ったファンデーションの選び方。(講義) 基本のメイク技術(ベース、ファンデーション、アイブロウ、アイカラー、チーク、リップ) (実技)						佐藤
8. 歯科販売物品のポップづくり						専任
教本・参考図書				評価方法 レポート提出 100点		
留意事項 ・ 受け身にならず積極的に参加すること						

教科名	学級コミュニケーション	時 期	1年 前期・後期	担当者	渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	2 (60)	形 態	講義 ・ 演習		専任教員		
概 要							
思いやりの心を持ち、円滑な人間関係を構築するためコミュニケーションスキルやホスピタリティマナーを身につけ豊かな人間性と社会性を育むことができることを目的とする 定期試験や資格試験、国家試験にむけた学習方法がわかるための対策を行う							
到達目標							
学校生活や学校行事などを通してクラスメイトとの親睦を深める 円滑な人間関係構築のため、また歯科衛生士として必要なコミュニケーション能力を身につける グループエンカウンターを通じて自己開示と他者理解を深める 定期試験・資格試験・国家試験に向けて自分に合った学習方法を見つけ、日々の学習習慣を身につける							
計画・(内容)							担 当
前期							
1	クラス役員選出(クラス役員・係)/個人目標設定・クラス目標						渡邊
2	ゼミ① 人間関係(人間関係を築くエンカウンターを行う)						〃
3	春のレクリエーションについて(レクの内容、グループ分け等)						〃
4	ゼミ② 人間関係(人間関係を築くエンカウンターを行う)						〃
5	ゼミ③ (歯・口の健康週間 計画)						〃
6	QU1回目(学級満足度調査の実施)						〃
7	歯・口の健康週間 作成・提出						〃
8	ゼミ④ 人間関係(人間関係を築くエンカウンターを行う)						〃
9	試験について 学習(資格試験に向けた対策)						〃
10	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						千葉
11	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						渡邊
12	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						渡邊
13	ゼミ⑤ 人間関係(人間関係を築くエンカウンターを行う)						渡邊
14	学習(資格試験に向けた対策)						永橋
15	学習(資格試験に向けた対策)						渡邊
後期							
16	後期目標・秋のレクリエーション(グループ打ち合わせ)						渡邊
17	ゼミ⑥ 口腔機能・咀嚼機能と食の関連について(計画)						〃
18	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
19	ゼミ⑦ 口腔機能・咀嚼機能と食の関連について(作成)						〃
20	スポーツ交流会について						〃
21	QU2回目(学級満足度調査の実施)						〃
22	ゼミ⑧ 口腔機能・咀嚼機能と食の関連について(発表)						〃
23	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
24	SNSについて、臨床実習にむけて(SNSの危険性を認識すること・臨床実習に向けた心構え)						〃
25	決意式について①(内容・クラス・個人目標)						〃
26	決意式について②(準備等)						〃
27	決意式について③(作成物 等)						〃
28	歓送会・激励会(内容決め・準備)						〃
29	学習(定期試験にむけた対策)						〃
30	ゼミ⑨ 学習サポート						〃
※内容により担当が替わること有り							
教本・参考図書				評価方法 定期試験 なし 単位修得の為の出席確認			
留意事項 ・グループワーク及び発表には積極的に参加すること ・行事では積極的に行動し、楽しむこと また、全員が楽しめるよう周囲の状況をよく観察し工夫すること。 ・学校行事の準備は全員で協力し合うこと ・最低、月に一度は5Sを実施する ・30回のうち数回はゼミ方式で行う							

2年生



教育課程（令和7年度～）

分野	教育内容	学科目	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎	科学的思考の基礎	生物	1	30	30		
		情報処理	1	30	30		
		栄養学	1	20	20		
		衛生統計	1	15		15	
	人間と社会の理解	英語コミュニケーション	1	20	20		
		心理学Ⅰ	1	20	20		
		心理学Ⅱ	1	20		20	
		国語表現	1	30	30		
		ソーシャルマナー	1	15	15		
		キャリアデザイン	1	15	15		
小計			10	215	180	35	
専門基礎	人体（歯と口腔を除く）の構造と機能	解剖・生理	3	45	45		
		生化学	1	15	15		
	歯・口腔の構造と機能	口腔組織	1	15	15		
		口腔生化学	1	15	15		
		口腔解剖	1	30	30		
		歯牙解剖	1	15	15		
		口腔生理	1	15	15		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	30	30		
		薬理学	2	30	30		
		微生物学	2	30	30		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	保健生態学Ⅰ	1	30	30		
		保健生態学Ⅱ	1	30		30	
		保健生態学Ⅲ	1	30			30
		衛生行政	1	15			15
		社会福祉	1	15			15
摂食嚥下		1	15		15		
口腔リハビリテーション		1	15		15		
小計		22	390	270	60	60	
専門	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	1	15	15		
		歯科医療倫理	1	15		15	
	臨床歯科医学	保存修復	1	20		20	
		歯内療法	1	20		20	
		歯周病学	1	20		20	
		放射線	1	30	30		
		歯科補綴	1	20		20	
		矯正歯科	1	30		30	
		小児・障がい者歯科	1	30	30		
		口腔外科	1	30		30	
		有病者歯科医療	1	15		15	
		審美・美容歯科	1	15		15	
	歯科予防処置論	口腔保健管理Ⅰ	5	150	150		
		口腔保健管理Ⅱ	5	150		150	
	歯科保健指導論	口腔保健管理Ⅲ	2	60			60
		歯科衛生過程	1	30			30
		高齢者歯科医療	1	30		30	
		地域包括ケア	1	30			30
	歯科診療補助論	診療補助Ⅰ	4	120	120		
		診療補助Ⅱ	3	90		90	
		診療補助Ⅲ	2	60			60
		看護学	1	30		30	
		介護技術	1	15	15		
	臨地・臨床実習	臨地・臨床実習	25	750	30	330	390
小計		63	1775	390	815	570	
選択 選択 必修	選択・必修分野	体育	1	30	30		
		OSCE	1	30		30	
		教養講座	1	15	15		
		歯科医療事務	1	30			30
		学級コミュニケーション	4	120	60	30	30
		課題研究	1	30			30
		総合講義	4	120			120
	小計		13	375	105	60	210
合計			108	2755	945	970	840

※ 1単位・・・講義 15～30時間 実技 30時間 演習 15～30時間 実習 30時間

授業進度表

		2年前期					2年後期						
科目	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
衛生統計	42				●—●								
心理学Ⅱ	43						●—●—●				●—●		
保健生態学Ⅱ	44	●—●											
摂食・嚥下	45										●—●—●		
口腔リハビリテーション	46										●—●—●		
歯科医療倫理	47			●—●									
保存修復	48	●—●											
歯内療法	49		●—●										
歯周病学	50	●—●											
歯科補綴	51	●—●—●											
矯正歯科	52	●—●—●—●											
口腔外科	53	●—●—●—●											
有病者歯科医療	54										●—●—●		
審美・美容歯科	55			●—●—●									
口腔保健管理Ⅱ	56-58	●—●—●—●									●—●—●		
高齢者歯科医療	59										●—●—●		
診療補助Ⅱ	60	●—●—●—●									●—●—●		
看護学	61	●—●—●—●—●											
臨地・臨床実習	62						●—●—●—●						
O S C E	63	●—●—●—●									●—●—●		
学級コミュニケーション	64	●—●—●—●									●—●—●		

教科名	衛生統計	時 期	2年 前期	担当者	山崎 幸路	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要 ・ 個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、エクセルで衛生統計の求め方を習得する。						
到達目標 1 個人情報保護の取り扱いを知り、エクセルの基本的なデータの取り扱いができる。 2 エクセルのテーブル編集を用いたデータ分析ができる。 3 エクセルの数式を用いて、基本統計のデータ分析ができる。 4 エクセルのグラフを用いて、各種グラフが作成できる。 5 収穫したデータをもとに、エクセルを使い各種統計情報を求めることができる。						
計画・(内容)						担 当
1 Excelによるデータ分析基礎1(Excelデータの保存、編集の基礎) 2 Excelによるデータ分析基礎2(テーブルデータ入力の基礎) 3 Excelによるデータ分析基礎3(数式入力の基礎) 4 Excelによるデータ分析基礎4(グラフ編集の基礎) 5 教本第5章より、Excelによる関数とデータ分析機能1(基本統計量:平均、中央値、標準偏差、分散など) 6 教本第5章より、Excelによる関数とデータ分析機能2(基本統計量:平均、中央値、標準偏差、分散など) 7 教本第6章より、Excelによる図表の作り方1 (棒グラフ、ヒストグラム、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、散布図、相関図、レーダーチャート) 8 教本第6章より、Excelによる図表の作り方2 (棒グラフ、ヒストグラム、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、散布図、相関図、レーダーチャート)						
教本・参考図書 ・ 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 ・ 30時間でマスターExcel2021:実教出版(ISBN978-4407359404) ・ 必要に応じてプリント、データ配布				評価方法 小テスト5回 各20点		
留意事項 ・ 配布データがPCで編集可能か確認する。上書き操作でメッセージが出た場合解凍データの保存をやり直すこと。						

教科名	心理学Ⅱ	時 期	2年 後期	担当者	林 美都子	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義			
概 要						
歯科衛生士は、患者や職場内において良好な人間関係を築くことが求められる。本講義は、1年次の「心理学Ⅰ」で学んだコミュニケーションスキルに関する知識や、心理学に関する主要な理論を基盤とした学習を行う。臨床場面におけるコミュニケーションの具体的な方法や、コミュニケーションを行う際に配慮することが必要となるであろう、こころの発達等に関する各種理論についての学習を行う。具体的な演習などを通して、人間関係づくりに必要なスキルについて具体的に理解することができるような講義とする。						
到達目標						
1. こころの発達の様相や各発達段階における課題について理解し、説明することができる。 2. 対人援助に必要な技法について説明できるとともに、各技法を臨床場面に当てはめて考えることができる。 3. 対人関係に関する主要な理論について説明することができる。						
計画・(内容)						
1. オリエンテーション、発達するこころ(1)①(「発達」を考える) 2. 発達するこころ(1)②(発達段階と発達課題、乳幼児期から児童期のこころの発達) 3. 発達するこころ(1)③(神経発達症群/神経発達障害群Ⅰ:知的能力障害等の理解と対応) 4. 発達するこころ(1)④(神経発達症群/神経発達障害群Ⅱ:自閉症スペクトラム等の理解とその対応) 5. 発達するこころ(2)(青年期、成人期、高齢期) 6. 人とかかわる心理(対人認知、帰属理論、対人魅力-好き・きらいの心理-) 7. 人と集うこころ(集団の心理、リーダーシップ、社会的影響)、小テスト 8. 健康なこころ(メンタルヘルス、心理臨床の対象、心理療法のいろいろ) 9. カウンセリングのこころ(カウンセリングとは、カウンセリングマインド、ロジャーズの基本姿勢を取り入れた介入法) 10. 思いを伝え合うこころ(医療コミュニケーションの基礎、コミュニケーション・スキル、特殊な場面でのコミュニケーション・スキル)、小レポート課題作成						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 心理学				評価方法 授業内小テスト(20%)、小レポート(20%)授業内演習課題(60%)を基にして総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。		
留意事項 ・教科書は、1年次の心理学Ⅰで使用したものを引き続き使用。						

教科名	保健生態学Ⅱ	時 期	2年 前期	担当者	加藤 元康	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義		岩井 祐司	実務・一般 歯科医師
					渡邊 恵里	実務・一般 歯科衛生士

概要

保健生態学は、衛生学・公衆衛生学および口腔衛生学を一連のものとして捕らえた学問です。その内容は3編に分割して、Ⅰ編『健康を左右する環境』、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』、Ⅲ編『健康に関わる地域の役割』となっております。この授業では、Ⅰ編『健康を左右する環境』について学びます。主として衛生学を取扱い、健康と予防医学の概念および人間を取巻く自然的・社会的要因と健康との関係について学びます。なお、第5、6章については、3年次の保健生態学Ⅲの授業にて学ぶ。

到達目標

- 1 世界および日本の人口推移、人口統計・死亡統計・生命表を説明できる。(加藤)
- 2 人における環境の重要性、一方、環境破壊に起因する公害および廃棄物への対応について理解し、説明できる。(加藤)
- 3 疫学の歴史、研究方法を理解し、発生因子、疾病の進行の指標を説明できる(岩井)
- 4 感染症の概念、三要因について説明できる(岩井)
- 5 感染症対策がわかる(岩井)
- 6 国家保健統計を説明できる(岩井)
- 7 抽出法、代表値、検定、図表がわかる(岩井)
- 8 スクリーニング検査を説明できる(岩井)
- 9 食中毒の分類と特徴を説明できる(渡邊)

計画・(内容)

担 当

《Ⅰ編 健康を左右する環境》

- 1 第2章 疫学の定義および概要
- 2 第2章 疫学の方法 その1
- 3 第2章 疫学の方法 その2
- 4 第5章 感染症の成り立ち、予防
- 5 第3章 人口：人口において人口統計、人口構造および死亡に関する統計を学ぶ。小テスト①
- 6 第5章 感染症の種類
- 7 第3章 人口：人口において人口統計、人口構造および死亡に関する統計を学ぶ。小テスト②
- 8 国家統計調査
- 9 第3章 人口：生命表より平均余命および平均寿命の動向について学ぶ。小テスト③
- 10 データの整理、代表値
- 11 第4章 健康と環境：環境(空気・水・気候・放射線・住居・衣服)と健康について学ぶ。小テスト④
- 12 検定
- 13 第4章 健康と環境：地球温暖化に伴う変化や公害および(感染性・非感染性)廃棄物が健康に及ぼす影響とその原因物質について学ぶ。小テスト⑤
- 14 スクリーニング検査
- 15 第6章 食品と健康
 - ①食中毒 ②食品の安全性 ③国民の栄養とその問題(栄養素、生活習慣病とメタボリック) ④食育

岩井
岩井
岩井
岩井
加藤
岩井
加藤
岩井
加藤
岩井
加藤
岩井
加藤
岩井
渡邊

教本・参考図書

歯科衛生学シリーズ
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1
保健生態学
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3
保健情報統計学

評価方法

筆記試験 27点 小テスト3回 3点 【加藤】
筆記試験 60点 【岩井】
筆記試験 10点 【渡邊】
合計 100点

留意事項

- ・授業はオムニバス形式につき、上記計画(内容)は授業の順とは異なります。
- ・授業の進行は、時間割にて確認してください。
- ・グループディスカッションの際には、積極的に参加すること。

教科名	摂食嚥下	時 期	2年 後期	担当者	古屋 有希	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義		竹山 美波	実務・一般	歯科衛生士
					三浦 伸子	実務・一般	歯科衛生士
概 要 ・摂食嚥下機能についてのメカニズム、機能障害、リハビリテーションについての理解を深める。 ・病院で働く歯科衛生士の業務内容と口腔ケアについて学ぶ							
到達目標 1 摂食嚥下の基礎について学び、理解できる 2 摂食嚥下障害について、各ライフステージについて説明できる 3 摂食嚥下障害の診査・診断を理解する 4 摂食嚥下リハビリテーションの方法と歯科衛生士の役割について学び、理解できる 5 摂食嚥下障害や麻痺の患者さんがいる急性期病院での歯科衛生士の役割を知る 6 口腔ケアの知識や手順の理解を深める							
計画・(内容)							担 当
1 摂食嚥下リハビリテーション総論 2 摂食嚥下機能のメカニズム 3 咬合・咀嚼機能・栄養の管理と評価 4 リスクマネジメント／病体別摂食嚥下障害とその評価 5 口腔衛生管理と摂食嚥下訓練 6 病院歯科の衛生士業務 7 嚥下困難者への食事指導(食物、とろみについて) 8 # (演習)							古 屋 古 屋 古 屋 古 屋 古 屋 竹 山 三 浦 三 浦
教本・参考図書 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版				評価方法 筆記試験 100点 【古屋】			
留意事項 ・グループワーク及び発表には積極的に参加すること (三浦) ・忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。(三浦)							

教科名	口腔リハビリテーション	時 期	2年後期	担当者	野村 昌邦	実務・一般 言語聴覚士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義・演習		三浦 伸子	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
- 摂食嚥下障害についての基礎知識を学ぶ。また、歯科衛生士が必要とする摂食嚥下リハビリテーションの評価や訓練法を理解し知識や技術を学ぶ。(野村) - 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士としての専門性を高めるための知識・技術・態度を学ぶ。(三浦) - 多職種と協働して口腔ケアを行う上での歯科衛生士としての果たすべき役割を考える。(三浦)						
到達目標						
1 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の関わりが理解できる(野村) 2 摂食嚥下機能における各ステージの役割が理解できる(野村) 3 摂食嚥下障害に関わる検査法が理解できる(野村) 4 摂食嚥下障害に対応したリハビリテーションを理解できる(野村) 5 摂食嚥下障害のリスク理解しリハビリテーションを実施できる(野村) 6 歯科衛生士として口腔機能低下等の問題点がわかる (三浦) 7 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士としての専門的口腔ケア計画に基づき介入ができる(三浦)						
計画・(内容)						担 当
1 摂食嚥下に関わる器官について(障害と原因)						野 村
2 摂食嚥下運動の各ステージについて(嚥下モデルを理解する)						野 村
3 摂食嚥下リハビリテーション①(摂食嚥下障害の観察と評価)						野 村
4 摂食嚥下リハビリテーション②(訓練法・実技指導)						野 村
5 摂食嚥下リハビリテーションにおけるリスクマネジメント						野 村
6 歯科衛生士が行う口腔ケア						三 浦
7 歯科衛生士が行う口腔ケア(アセスメント)						三 浦
8 歯科衛生士が行う口腔ケア(介入)演習						三 浦
教本・参考図書 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版				評価方法 筆記試験60点 【野村】 筆記試験40点 【三浦】 合計 100点		
留意事項 - 授業は指定した教科書と配布プリントで行います(野村) 2～4回は前回授業の確認問題を行います(野村) - 実技を行う場合は積極的に参加すること(野村) - グループワーク及び発表には積極的に参加すること (三浦) - 忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。(三浦) - 時間割と順番が異なる場合があります。						

教科名	歯科医療倫理	時 期	2年 前期	担当者	奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要 現在の医療のあり方は、医師中心の倫理観を根底とした伝統を覆すごとく、患者中心とした《患者－医療従事者》間の密接した関係性を重視する新たな医療倫理の展開が重要視されている。 本講義では、歯科衛生士という医療現場における専門職の一員として、倫理的判断に基づいた対人援助行動について学ぶ。また、歯科医療における様々な問題について考える。						
到達目標 1. 医療従事者の職業倫理に関する規範と、患者の権利について概説できる。 2. インフォームド・コンセントの倫理的意義について述べるができる 3. 生活行動と保健行動について説明できる 4. 歯科医療におけるQOLの向上について説明できる						
計画・(内容) 1. 第1章 なぜ医療倫理を学ぶのか 医療従事者の基本義務と患者中心の医療について 2. 第2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス 医療従事者の職業倫理に関する規範と、患者さんの権利について学ぶ 3. 第2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス バイオエシックス(生命倫理学)に関わる問題として、生命の始まりと終わりに関わる様々な倫理的問題について学び、ディスカッションを通じて理解を深める 4. 第3章 インフォームド・コンセント インフォームド・コンセントと、患者中心の医療について事例から考える 5. 第4章 研究と医療倫理 研究と医療倫理の関わりと倫理的配慮の要件として、特に歯科衛生性研究に必要な倫理指針について学ぶ 6. 付章 歯科医療を考えるうえで必要な行動 患者の行動について考える 7. 付章 歯科医療を考えるうえで必要な行動 歯科医療従事者の行動について考える 8. 付章 歯科医療を考えるうえで必要な行動 まとめ 試験						
教本・参考図書 歯科医療倫理学 (医歯薬出版)				評価方法 筆記試験1回 100点満点		
留意事項 授業の多くはグループディスカッションです。 ディスカッションは周囲の意見を聞きながら、自分の考えを整理する機会でもあります。積極的に参加してください。						

教科名	保存修復	時 期	2年 前期	担当者	平田 充	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義		齊藤 さやか	実務・一般 歯科医師
概 要 ・ 歯科保存修復学の歯科医学における位置づけを理解し、歯を健全な状態で保存するための、歯科保存修復学の役割を学ぶ。(平田) ・ 歯の漂白について学習する。(齊藤) ・ 間接修復について学習する。(齊藤) ・ 補修修復について学習する。(齊藤) ・ 保存修復における歯科衛生士の役割について学習する。(齊藤)						
到達目標 1 歯の硬組織疾患の種類と原因、予防法、処置法を説明できる (平田) 2 う蝕治療の流れ、また前準備の概要を説明できる (平田) 3 MIDを説明できる (平田) 4 歯の漂白の原因を知り、適応症・禁忌症を理解し、臨床的対応を説明できる (齊藤) 5 間接修復と合着材の種類と特徴を知り、修復方法に応じた合着材の選択ができるようにする (齊藤) 6 補修修復と再研磨の適応症を知り、適切な方法を選択し、できるようにする (齊藤) 7 保存修復治療に使用する材料・薬剤を管理し、患者への説明と指導ができる (齊藤)						
計画・(内容)						担 当
1 総論 (保存修復学の位置づけ)						平田
2 窩洞と保存修復治療 (窩洞の構成と名称・分類)						平田
3 保存修復治療の概要 (修復処置の流れ)						平田
4 直接法修復① (コンポジットレジン修復)						平田
5 歯の漂白						齊藤
6 直接法修復② (セメント修復)						平田
7 間接法修復①メタル修復 (inlay,onlay)						齊藤
8 " ②セラミック修復(ラミネートベニア修復、CAD／CAM修復)						齊藤
9 " ③(合着材と接着剤) 補修修復と再研磨						齊藤
10 保存修復における歯科衛生士の役割						齊藤
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法				評価方法 ・ 筆記試験(40点)小テスト(10点) 合計50点 【平田】 ・ 筆記試験(50点) 【齊藤】 合計 100点		
留意事項 ・ 授業は集中し意欲を持って取り組むこと (平田) ・ 各項目について、教科書、参考資料、ビデオ、スライド等を使い学習する (平田)						

教科名	歯内療法	時 期	2年 前期	担当者	岩井 宏之	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義		福田 健太	実務・一般 歯科医師
概 要						
・ 歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の分類、それぞれの原因と治療方法を理解する。(岩井) ・ 歯科衛生士として歯内療法治療に必要な診査・診断・治療内容・器材・薬剤の知識を習得する。(岩井) ・ 歯科臨床において、日常的に行われる歯内療法に携わる上で、その処置、器具、薬剤の使用目的、使用法、必要性を理解する。(福田)						
到達目標						
1 象牙質知覚過敏症の症状と原因・処置法を説明できる (岩井) 2 歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類と症状、治療法を説明できる (岩井) 3 歯髄の保存療法と除痛療法を説明できる (岩井) 4 治療対象となる根管の分別ができる (福田) 5 抜髄処置、感染根管処置を理解できる (福田) 6 根管形成法を理解できる (福田) 7 根未完成歯の歯内療法を理解できる (福田) 8 種々の根管充填を理解できる (福田) 9 種々の外科的歯内療法処置を理解できる (福田) 10 外傷、偶発症への対応を理解できる (福田)						
計画・(内容)						担 当
1 歯内療法の概要 (歯内療法の目的・主な疾患の概要と原因)						岩井
2 歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類・症状・処置(1)						岩井
3 歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類・症状・処置(2)						岩井
4 根管治療の術式、根管の病態と分類について (診断～準備、根管口明示まで)						福田
5 歯髄保存療法 (歯髄鎮痛消炎療法・覆髄法)						岩井
6 根管形成の実際について (根管形成、拡大、貼薬、仮封)						福田
7 根管充填の実際について (根管充填法の種類、器具、特徴)						福田
8 歯髄の除去療法 (歯髄切断法・抜髄法)						岩井
9 根未完成歯の根管治療、外科的歯内療法について (アペキシゲネーシス、アペキシフィケーション、様々な外科的歯内療法)						福田
10 歯牙の外傷、及び偶発症への対応について						福田
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患・保存修復・歯内療法				評価方法 ・ 筆記試験 50点 【岩井】 ・ 筆記試験 50点 【福田】 合計 100点		
留意事項 毎回、配布するプリントを熟読し理解を深めること (岩井)						

教科名	歯周病学	時期	2年 前期	担当者	光銭 裕太	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (20)	形態	講 義		石塚 弘樹	実務・一般	歯科医師
概 要							
・歯周疾患の基礎的内容(総論、歯周組織の解剖と機能、歯周治療)について理解し、歯科衛生士業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法について学ぶ。(光銭) ・歯周疾患はう蝕とともに歯を失う2大疾患といわれ、その予防と治療は歯科衛生士の仕事として極めて重要である。歯周病への理解を深め、歯科衛生士として必要な予防と治療の知識を習得する。(石塚)							
到達目標							
1.臨床に携わる前に知っておくべき歯周病の知識を習得する(光銭) 2.歯周病の種類と症状を説明できる(光銭) 3.歯周病進行の流れを説明できる(光銭) 4.歯周病の検査法と検査結果を説明できる(光銭) 5.歯周基本治療の術式と適応症を説明できる(光銭) 6.歯周外科からメンテナンスまでの目的や術式、使用器具がわかり、歯周治療における歯科衛生士の役割が理解できる(石塚) 7.歯周疾患と全身疾患の関連性を説明できる(石塚)							
計画・(内容)							担 当
1 歯周治療とは (総論) 正常な歯周組織の構造と機能 (歯周組織、歯周組織と咬合、審美性の維持、歯周組織と加齢変化)							光銭
2 歯周病の原因 (細菌因子、宿主因子、環境因子)							光銭
3 歯周病の分類 (歯肉病変、各歯周炎、咬合性外傷)							光銭
4 歯周治療の進め方 (歯周病の予防と歯周治療の基本) 歯周病の診査 (主訴を中心とした一般診査・歯周組織破壊程度の診査・原因となる因子の診査)							光銭
5 歯周基本治療① (歯周基本治療の目的・効果) 歯周基本治療② (歯周基本治療の内容と実際・薬物療法)							光銭
6 歯周外科治療① (目的と分類、歯周外科の治療形態、歯周外科に用いる器具)							石塚
7 歯周外科治療② (種類、根分岐部病変の治療、歯周一歯内病変の治療)							石塚
8 歯周治療としてのリハビリテーション (咬合治療、矯正治療、歯の固定、インプラント治療)							石塚
9 メンテナンス、サポータティブペリオドンタルセラピー:SPT (メンテナンス、SPTの重要性と意義、メンテナンス、SPTに移行する時期、リコール時の診査・治療)							石塚
10 歯周疾患と全身疾患の関連性について (糖尿病、循環器疾患、高血圧、早産・低体重児出産、喫煙、骨粗鬆症、誤嚥性肺炎、菌血症等)							石塚
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯周病学				評価方法 ・筆記試験 50点 【光銭】 ・筆記試験 50点 【石塚】 合計 100点			
留意事項 ・講義内容に該当する範囲は教科書にて予習すること(光銭) ・配布されたプリントにて復習し、2回目以降の講義で確認問題を行う(光銭) ・毎回の講義ごとに、講義内容に該当する範囲を教科書で予習しておくこと(石塚) ・配布プリントを復習し、2回目以降の講義毎に復習問題を行う(石塚)							

教科名	歯科補綴	時期	2年 前期	担当者	北條 拓也	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (20)	形態	講義		額賀 英之	実務・一般	歯科医師
概要							
・補綴歯科治療に関する基礎知識を身につけ、国家試験範囲を網羅し、補綴歯科治療をイメージできるよう学びを深める為の授業とする。同時に補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を理解することを目的とする。							
到達目標							
1.補綴歯科治療の流れを理解し、円滑な介助・説明ができる 2.補綴装置に使用される名称・役割を理解する 3.各種装置の具体的な作製手順・使用器材を覚え、実際の臨床で活用できる 4.義歯の具体的な製作手順・使用器材を覚え、実際の臨床で活用できる 5.CAD/CAM等の新技術を理解する 6.スポーツ外傷の予防法を理解し、スポーツ選手への歯科衛生士としての役割を覚える							
計画・(内容)							担当
1 補綴歯科治療の意義・目的と基礎概念 2 クラウン・ブリッジの分類 3 咬合様式と下顎運動 4 補綴装置の種類構造と顎口腔機能検査 5 補綴治療の実際とメンテナンス 6 全部床義歯の概要と検査・診断 7 全部床義歯の治療の流れと管理 8 部分床義歯の概要と検査・診断 9 部分床義歯の治療の流れと管理 10 補綴治療に用いる器材・スポーツ外傷の予防、歯科衛生士の役割							北條 北條 北條 北條 北條 額賀 額賀 額賀 額賀 額賀
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴				評価方法 筆記試験 100点 【北條・額賀】			
留意事項 ・必要な時に復習問題を行い、補綴用語を理解しているか確認をする							

教科名	矯正歯科	時 期	2年 前期	担当者	今野 正裕	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講 義		勝又 茂	実務・一般 歯科医師
概 要						
・ 歯科矯正学は「歯、歯周組織、顎骨および軟組織の正常な成長発育を研究すると同時に、これらの諸構造の不正な発育によって生じた咬合の不正、顎骨形態および顔貌の異常などの改善を行うことを研究し、さらにこれらの不正状態の発生を予防することをあわせて研究する歯科医学の1分野である」と定義されている。この講義では矯正歯科診断と治療に必要な基本的な知識を習得する。(今野) ・ 教本並びに実際に使用している矯正装置及び器具を用い、授業の達成をはかる (勝又)						
到達目標						
1 胎生期の顎顔面、出生後の頭蓋骨(頭蓋冠、頭蓋底、上顎骨、下顎骨)および歯の成長発達を理解する。(今野) 2 正常咬合の条件、成立するための条件および不正咬合の種類、原因を理解する。(今野) 3 不正咬合の診察、検査、分析、診断の流れと必要な資料を理解する。(今野) 4 矯正力を加えることにより歯、歯周組織、顎骨がどのような反応を示すのかを理解する。(今野) 5 口唇・口蓋裂の治療、顎変形症に対する外科的矯正治療等の包括的歯科治療における矯正学的対処法を理解する。(今野) 6 矯正装置の種類と使用目的を説明できる。(勝又) 7 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。(勝又) 8 各不正咬合における矯正治療の流れを把握し説明できる。(勝又) 9 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割を理解し説明できる。(勝又)						
計画・(内容)						担 当
1 矯正治療とは (歴史と概要)、成長発育①(全身と顎顔面) 2 成長発育② (歯列)、正常咬合、不正咬合①(種類) 3 不正咬合②(原因)、診断①(模型分析等) 4 診断② (セファロ) 5 歯の移動 6 先天奇形と外科矯正治療 7 復習 8 MFTとは 9 矯正装置の種類 (可撤式矯正装置、固定式矯正装置、機能的矯正装置、拡大装置、顎外固定装置、口腔習癖除去装置、保定装置) 10 歯科矯正治療の実際 ①上下顎の前後的関係の不調和 11 歯科矯正治療の実際 ②上下顎の垂直的関係の不調和 12 " ③成人矯正 13 " ④矯正歯科治療のトラブルへの対応 14 矯正歯科における歯科衛生士の役割 (矯正歯科診療時の業務) 15 まとめ (国家試験問題による復習)						- 今野 - 今野 - 今野 - 今野 - 今野 - 今野 - 今野 - 今野 - 勝又 - 勝又 - 勝又 - 勝又 - 勝又 - 勝又 - 勝又
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正 第2版				評価方法 筆記試験(50点) 【今野】 筆記試験(50点) 【勝又】 合計 100点		
留意事項						

教科名	口腔外科	時期	2年 前期	担当者	白石 剛士	実務・一般	歯科医師
					村田 真介	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形態	講義		川瀬 敬	実務・一般	歯科医師
概要							
・う蝕、歯周疾患以外に顎口腔領域に発生する、各種疾患に対する基本的な知識を学ぶ。また、口腔外科的処置の際に留意すべき全身疾患の種類や注意点について、基本的な知識を学ぶ（白石） ・口腔外科治療の流れと診療上の注意点を理解し、安全で安心な歯科医療を提供する知識を学ぶ（村田） ・口腔インプラント治療を理解する上で必要な知識、手技の概要を習得し、インプラント治療の特徴を学ぶ（川瀬）							
到達目標							
1 歯科・口腔外科疾患の治療に影響を与える全身疾患について、説明ができる（白石） 2 口腔外科疾患の種類をあげて、大きく分類ができる（白石） 3 各種口腔外科疾患の症状、治療法を説明できる。（白石） 4 バイタルサインの重要性と局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔の特徴がわかる（村田） 5 救急蘇生法の理論を身につける（村田） 6 それぞれの口腔外科小手術に必要な機械器具の特徴を理解する（村田） 7 口腔インプラント治療の特徴を理解し、利点・欠点を説明できる（川瀬） 8 インプラント治療における術式・介助の要件がわかる（川瀬） 9 口腔インプラント治療の補綴方法、メンテナンスの特徴や手技がわかる（川瀬）							
計画・(内容)							担当
1 概論（口腔外科疾患の定義、分類や歯科・口腔外科診療で問題となる基礎疾患について） 顎・口腔領域の先天異常と発育異常の基礎知識（唇顎口蓋裂と顎変形症）							白石
2 口腔領域の損傷の基礎知識（軟組織の外傷と骨折） 口腔粘膜病変の基礎知識（口腔粘膜病変の種類と症状）							白石
3 口腔領域に症状を示す血液疾患の基礎知識（血液疾患の種類と症状） 顎・口腔領域の嚢胞性疾患の基礎知識（顎骨・軟組織に発生する嚢胞）							白石
4 顎・口腔領域の腫瘍（良性と悪性）および腫瘍類似疾患の基礎知識（種類と症状） 唾液腺疾患の基礎知識（唾液腺疾患の種類と症状）							白石
6 歯科治療における歯科麻酔と患者管理							村田
5 口腔領域の神経性疾患の基礎知識（神経性疾患の種類と症状） 顎・口腔領域の炎症性疾患の基礎知識（炎症性疾患の種類と症状）							白石
7 局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔							村田
8 歯科治療時の局所的偶発症、全身的偶発症							村田
9 救急蘇生法							村田
10 口腔外科治療の流れと口腔外科小手術							村田
11 口腔インプラント学の基礎知識							川瀬
12 口腔インプラント治療（診査・診断）							川瀬
13 "（外科処置）							川瀬
14 口腔インプラント治療（補綴処置）							川瀬
15 口腔インプラント治療（メンテナンス・合併症）							川瀬
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 口腔外科・歯科麻酔学 第2版 歯科補綴学				評価方法 筆記試験 35点 筆記試験 35点 筆記試験 30点 合計 100点			
留意事項							

教科名	有病者歯科医療	時 期	2年 後期	担当者	佐藤 雄治	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義		松田 光平	実務・一般 歯科医師
概 要						
・ 高齢化社会を迎え、様々な疾患を有する患者の歯科治療を行う機会が増えてきている。本教科では、歯科治療時に注意を要する主な全身疾患について学習し、有病者の歯科治療を安全に行うための知識や対処法を学ぶ(佐藤)						
到達目標						
1 歯科治療時に注意を要する各臓器や全身的な疾患の症状や病状、治療法がわかる。(佐藤) 2 全身疾患を有する患者の歯科治療時の注意点や起こりうる併発症の予防策がわかる。(佐藤) 3 有病者に対する鎮静法、静脈麻酔、全身麻酔などの行動管理法の有用性がわかる。(佐藤)						
計画・(内容)						担 当
1 全身疾患の基礎知識 (全身疾患の知識の必要性、口腔疾患との関わり) 2 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点① (代謝・内分泌疾患、消化器疾患) 3 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点② (循環器疾患、血液疾患、呼吸器疾患) 4 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点③ (整形外科疾患、腎・泌尿器疾患) 5 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点④ (免疫疾患、膠原病、感染症、神経・精神疾患) 6 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点⑤ (産科・婦人科疾患、がん治療と口腔の関わり等) 7 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点⑥ (鎮静法、静脈麻酔、全身麻酔の方法とその有用性) 8 口腔機能低下や摂食嚥下障害の原因、症状、リハビリテーションについて						
教本・参考図書				評価方法		
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック 配布プリント				筆記試験 100点		
留意事項						

教科名	審美・美容歯科	時 期	2年 前期	担当者	福田 幹久	実務 一般	歯科医師
					俵 侑子	実務 一般	歯科医師
					麓 亜紀穂	実務 一般	歯科衛生士
					永橋 茜	実務 一般	歯科衛生士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義・演習				
概 要							
・ 最近の歯科臨床の現場では、審美的観点の重要性が増してきており、患者にとってのQOLを向上し、価値ある歯科医療の実践に際しては従来の歯科医学的観点に加えて、審美的観点も含めた包括的歯科医療のあり方について理解する必要がある。授業を通じて、その様な考え方や審美に配慮した包括歯科医療の実際を学ぶ。(福田) ・ ボツリヌス毒素の作用機序とボツリヌス療法の適応症、ヒアルロン酸の作用機序とヒアルロン酸注入療法、それぞれの禁忌症、施術の流れ、歯科衛生士としての関わり方(術前、術後のケア、患者説明等)を学ぶ。また、基本的な歯肉マッサージについて理解し、安全に実施できる手技を習得する。(俵) ・ ホワイトニングを勧める際のコミュニケーションの取り方について学ぶ。(麓) ・ セルフホワイトニングをによる歯の色調変化(客観)と使用感や知覚症状(主観)を経験することで、患者の心理に寄り添った審美的QOLの向上に寄与する知識・技術を習得する。(永橋)							
到達目標							
1 歯科医療における審美性の重要性を理解できる。(福田) 2 審美的改善、美容的改善のための種々の施術、治療法を理解できる。(福田) 3 審美性にも配慮した包括的歯科医療の価値や実際がわかる。(福田) 4 ボツリヌス毒素の基本的な作用機序と安全性について説明できる。(俵) 5 歯科領域におけるボツリヌス療法の適応と禁忌を理解する。(俵) 6 ヒアルロン酸充填剤の基本的な作用機序と安全性について説明できる。(俵) 7 歯科領域におけるヒアルロン酸注入療法の適応と禁忌を理解できる。(俵) 8 機能・審美的両面からヒアルロン酸注入療法の意義を説明できる。(俵) 9 歯肉マッサージの目的と効果を説明でき、適応症と禁忌症を理解し、患者に応じた判断ができる。(俵) 10 基本的な歯肉マッサージの手技を習得し、安全に実施できる。(俵) 11 審美治療における倫理的配慮とインフォームドコンセントの重要性を考える。(麓) 12 ビフォーアフターの写真やシェードガイドを活用し、視覚的に効果を伝える技術が分かる。(麓) 13 ホワイトニング後のケアや注意点について理解する。(麓) 14 歯科衛生士としての役割(術前説明・術後観察・患者対応)を理解し、実践できる。(麓) 15 ホワイトニングによる歯牙の色調変化について客観的な評価ができる。(永橋) 16 ホワイトニングによる患者の心理的、身体的な変化を理解する。(永橋)							
計画・(内容)						担 当	
1 歯科臨床における審美性の重要性と審美性に配慮した包括的歯科の考え方 2 審美的ゴールを実現するための様々な治療法とその実際 3 ホワイトニング実習(ホームホワイトニング) 4 ホワイトニング実習(ホームホワイトニング) 5 ホワイトニングコーディネーターについて (医療ホワイトニングとカウンセリング、術前・術中・術後・メンテナンス時のケア) 6 美容歯科(口腔周囲筋へのアプローチ:ボツリヌス療法、ヒアルロン酸注入療法) 7 歯肉マッサージ(デンタルエステ、演習) 8 まとめ、レポート作成						福田 福田 (株)松風 (株)松風 麓 俵 俵 永橋	
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版				筆記試験 30点 【福田】			
歯科衛生学シリーズ 歯科材料				30点 【俵】			
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学				レポート 40点 【永橋】 合計 100点			
ボツリヌス療法のすべて アジア人への応用 三井 浩 南江堂 美容皮膚科学 BEAUTY#36 特集 美しい口唇 医学出版 Aesthetic reconstruction 顎顔面美容再建歯科へのfirst step kirabooks 木下径彦				(使用前・1週間後・2週間後の3回を写真撮影し、色調や 症状の経過を追い、ホワイトニングの実際、歯牙の状況 等を記載)			
留意事項							
・ 配布されたプリント及び参考資料は、指示に従い使用・保管すること ・ レポート作成はパソコンを使用し、データで提出すること							

教科名	口腔保健管理Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	三浦 伸子 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	5(150)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
口腔の二大疾患の一つである歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、根拠に基づいた専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 2年次は、歯肉縁下に対する歯面研磨・歯面清掃やキュレットスケーラーでのスケーリング、対象者のライフステージや全身状態など、歯周病のリスクファクターに対する個人指導の能力を身につける。							
到 達 目 標							
1.キュレットスケーラーを適切に操作できる 2.歯肉縁下の歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 3.口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる 4.保健医療情報を収集できる 5.対象者に合わせた歯科衛生介入を実施できる							
計画・(内容)							担 当
前期							
1 概論(歯周病の原因・予防)							三浦
2 患者情報収集①(歯周病エックス線撮影読影・BOPについて)							千葉
3 歯周組織および根分岐部病変、歯周治療に関するカルテ記載事項							渡邊
4 キュレットスケーラー(特徴、使用目的、種類、使用法)							千葉
5 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ①(上顎前歯部 マネキン演習)							千葉
6 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ②(下顎前歯部 マネキン演習)							千葉
7 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ③(上顎臼歯部 マネキン演習)							千葉・三浦
8 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ④(下顎臼歯部 マネキン演習)							千葉
9 患者情報収集②(口腔内診査・歯式の記入 演習)							渡邊
10 患者情報収集②(口腔内診査・歯式の記入 演習)							渡邊
11 パワースケーラー①(エアー・超音波 種類と特徴、操作方法講義)							三浦
12 パワースケーラー②(取扱い方法およびチップの適正な当て方 演習)							三浦・渡邊
13 ライフステージ青年期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入)							千葉
14 キュレットスケーラー実技試験(キュレット番号・使用部位等)							三浦・千葉
15 キュレットスケーラー実技試験(キュレット番号・使用部位等)							三浦・千葉
16 ライフステージ成人期①(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入)							千葉
17 ライフステージ成人期②(食生活特徴・栄養・生活習慣病保健指導)							千葉
18 パワースケーラー③(エアスケーラーによる歯石除去 相互実習)							三浦・千葉
19 パワースケーラー③(エアスケーラーによる歯石除去 相互実習)							三浦・千葉
20 歯周治療におけるリスクファクター①(糖尿病と歯周病の関係)							千葉
21 パワースケーラー④(超音波スケーラーによる歯石除去 相互実習)							三浦・渡邊
22 パワースケーラー④(超音波スケーラーによる歯石除去 相互実習)							三浦・渡邊
23 超音波スケーラーを使用した歯周ポケット内イリゲーション操作(相互実習)							千葉・三浦
24 超音波スケーラーを使用した歯周ポケット内イリゲーション操作(相互実習)							千葉・三浦
※ 演習授業については、科目担当教員(三浦・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論		歯科衛生学シリーズ 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学		前期	実技試験(10点)		
歯科衛生学シリーズ 歯周病学		歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学			筆記試験(90点)	合計100点	
				後期	実技試験(10点)		
					筆記試験(90点)	合計100点	
				※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする			
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習に必要となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	口腔保健管理Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	三浦 伸子 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	5(150)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
口腔の二大疾患の一つである歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、根拠に基づいた専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 2年次は、歯肉縁下に対する歯面研磨・歯面清掃やキュレットスケーラーでのスケーリング、対象者のライフステージや全身状態など、歯周病のリスクファクターに対する個人指導の能力を身につける。							
到 達 目 標							
1.キュレットスケーラーを適切に操作できる 2.歯肉縁下の歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 3.口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる 4.保健医療情報を収集できる 5.対象者に合わせた歯科衛生介入を実施できる							
計画・(内容)							担 当
25 歯周治療におけるリスクファクター②(糖尿病と歯周病について保健指導の内容検討)							千葉
26 リーフレットを使用した患者指導①(糖尿病)							千葉
27 歯周治療におけるリスクファクター③(喫煙)							千葉
28 歯周治療におけるリスクファクター④(喫煙について保健指導の内容検討)							千葉
29 リーフレットを使用した患者指導②(喫煙)							千葉
30 患者情報収集③(口腔内診査・PCR 相互実習)							千葉・渡邊
31 患者情報収集③(口腔内診査・PCR 相互実習)							千葉・渡邊
32 口腔清掃方法演習							三浦
33 成人期における保健指導①(喫煙・糖尿病等 相互演習)							千葉
34 成人期における保健指導①(喫煙・糖尿病等 相互演習)							千葉
35 PMTC(目的、使用器材と操作方法 マネキン演習)							三浦
36 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク①(上下顎前歯 相互実習)							三浦・千葉
37 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク①(上下顎前歯 相互実習)							三浦・千葉
38 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク②(上下顎臼歯 相互実習)							三浦・渡邊
39 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク②(上下顎臼歯 相互実習)							三浦・渡邊
40 歯面清掃器(特徴、使用上の注意事項 相互実習)							三浦・千葉
41 歯面清掃器(特徴、使用上の注意事項 相互実習)							渡邊・千葉
42 成人期における保健指導②(患者設定および症例〔喫煙・糖尿病等〕を用いた相互演習)							千葉・渡邊
43 成人期における保健指導②(患者設定および症例〔喫煙・糖尿病等〕を用いた相互演習)							千葉・渡邊
44 基本的なアシスタントワーク(患者誘導・口腔内診査の記入・歯周組織検査・バキューム・ライティング 相互実習)							千葉・渡邊
45 基本的なアシスタントワーク(患者誘導・口腔内診査の記入・歯周組織検査・バキューム・ライティング 相互実習)							千葉・渡邊
46 患者設定演習①(患者誘導・バキューム・ライティング 相互実習)							千葉
47 患者設定演習①(患者誘導・バキューム・ライティング 相互実習)							千葉
48 患者設定演習②(1人術者での超音波スケーラーを使用したスケーリング 相互実習)							三浦
49 患者設定演習②(1人術者での超音波スケーラーを使用したスケーリング 相互実習)							三浦
※ 演習授業については、科目担当教員(三浦・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生学シリーズ	歯科予防処置論・歯科保健指導論			前期	実技試験(10点)		
歯科衛生学シリーズ	歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				筆記試験(90点)	合計100点	
歯科衛生学シリーズ	歯周病学			後期	実技試験(10点)		
歯科衛生学シリーズ	高齢者歯科学				筆記試験(90点)	合計100点	
※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする							
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習に必要となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	口腔保健管理Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	三浦 伸子 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	5(150)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
口腔の二大疾患の一つである歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、根拠に基づいた専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 2年次は、歯肉縁下に対する歯面研磨・歯面清掃やキュレットスケーラーでのスケーリング、対象者のライフステージや全身状態など、歯周病のリスクファクターに対する個人指導の能力を身につける。							
到 達 目 標							
1.キュレットスケーラーを適切に操作できる 2.歯肉縁下の歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 3.口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる 4.保健医療情報を収集できる 5.対象者に合わせた歯科衛生介入を実施できる							
計画・(内容)							担 当
後期 50 シックルスケーラーのシャープニング(原則および目的、砥石の種類・方法・キュレットスケーラー復習) 51 キュレットスケーラーのシャープニング(原則および目的、砥石の種類・方法・キュレットスケーラー復習) 52 ライフステージ 高齢者(一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導) 53 ライフステージ 要介護高齢者(一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導) 54 ライフステージ 障がい者(一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導) 55 ライフステージ妊産婦期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 56 キュレットスケーラー実技試験(スケーリング操作) 57 キュレットスケーラー実技試験(スケーリング操作) 58 歯周治療におけるリスクファクター⑤(妊産婦保健指導の内容検討) 59 リーフレットを使用した患者指導③(妊産婦) 60 歯科衛生介入としての歯科保健指導(食品とう蝕誘発性) 61 歯科衛生介入としての歯科保健指導(歯周病・酸食症・咀嚼と食生活) 62 指数① 63 指数② 64 指数③ 65 キュレットスケーラーを使用したスケーリング①(上下前歯部 相互実習) 66 キュレットスケーラーを使用したスケーリング①(上下前歯部 相互実習) 67 災害時における歯科衛生士の役割①(歯科保健医療のためのアセスメントと支援活動) 68 キュレットスケーラーを使用したスケーリング②(上下臼歯部 相互実習) 69 キュレットスケーラーを使用したスケーリング②(上下臼歯部 相互実習) 70 災害時における歯科衛生士の役割②(検死の際に必要な知識とその方法) 71 国家試験対策①歯周組織の構造と機能等(主要3科問題集) 72 国家試験対策②歯周組織の構造と機能等(主要3科問題集) 73 国家試験対策③歯周組織検査(アタッチメントレベル) 74 患者設定演習③(1人術者での超音波スケーラーを使用したスケーリング 相互実習) 75 患者設定演習③(1人術者での超音波スケーラーを使用したスケーリング 相互実習)							渡邊 渡邊 三浦 三浦 千葉 渡邊 三浦 三浦 渡邊 渡邊 千葉 千葉 千葉 千葉 三浦・渡邊 三浦・渡邊 渡邊 三浦・千葉 三浦・千葉 渡邊 千葉 渡邊 三浦 渡邊・千葉 渡邊・千葉
※ 演習授業については、科目担当教員(三浦・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論				前期 実技試験(10点)			
歯科衛生学シリーズ 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				筆記試験(90点) 合計100点			
歯科衛生学シリーズ 歯周病学				後期 実技試験(10点)			
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学				筆記試験(90点) 合計100点			
				※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする			
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習に必要となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	高齢者歯科医療	時 期	2年 後期	担当者	山岸 有子	実務・一般	歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講 義		専任教員	実務・一般	歯科衛生士
概 要							
・介護保険制度の概要、高齢者の生活機能の評価を学ぶ(山岸) ・高齢者に多い全身疾患と口腔疾患や口腔内の特徴を学ぶ(山岸) ・高齢者の薬剤服用に関する事項、高齢者に対する口腔ケアの方法を学ぶ(山岸) ・高齢者の栄養状態における評価を学ぶ(山岸) ・高齢者及び要介護高齢者の口腔内観察とアセスメントについて学ぶ(専任)							
到達目標							
1 加齢に伴う心身機能・心理的な変化がわかる。(山岸) 2 高齢者に多い口腔疾患や口腔内の特徴がわかる。(山岸) 3 高齢者の生活機能の評価がわかる。(山岸) 4 高齢者における口腔アセスメントがわかる。(山岸) 5 高齢者における薬剤服用がわかる。(山岸) 6 高齢者及び要介護高齢者の口腔内観察とアセスメントの方法がわかる(専任)							
計画・(内容)							担 当
1 高齢者をとりまく社会と環境 2 口腔・咽頭領域の加齢変化 3 精神・心理的变化 4 高齢者に特有な口腔の疾患・症状 5 高齢者に多いその他の口腔疾患・口腔機能低下症 6 口腔機能低下症の検査・診断 7 生活機能の評価 8 高齢者の栄養状態 9 口腔評価 オーハット、周術期、急性期について 10 高齢者の薬剤服用 11 高齢者の口腔内観察・アセスメント・口腔ケアの目的・留意点 12 要介護高齢者の診療補助(口腔ケア ユニット演習) 13 要介護高齢者の診療補助(口腔ケア ユニット演習) 14 要介護高齢者の診療補助(口腔内観察・アセスメント・評価 ベッド/パイプ椅子 演習) 15 要介護高齢者の診療補助(口腔内観察・アセスメント・評価 ベッド/パイプ椅子 演習)							- 山岸 - 山岸 - 山岸 - 山岸 - 山岸 - 山岸 - 山岸 - 山岸 - 山岸 - 山岸 - 専任 - 専任 - 専任 - 専任 - 専任
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 配布プリント				評価方法 筆記試験 80点 【山岸】 筆記試験 20点 【専任】			
留意事項							

教科名	診療補助Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	渡邊 恵里 永橋 茜	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	3 (90)	形 態	講義 ・ 演習			
概 要 様々な、ライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 2年生では、各専門分野での様々な歯科治療の流れを理解した上でのアシスタントワーク、対面行為を学ぶ。 診療の円滑化・効率化に寄与する為の知識・技術・態度を習得し、臨床実習に対応できる能力を養う。						
到 達 目 標 ・口腔内規格写真撮影ができる。 ・診療の流れに応じた準備ができる。 ・各種材料の取り扱いができる。 ・保存修復の診療補助の手順の説明と準備ができる。 ・保存修復に必要な薬剤・器材の取り扱いができる ・歯内療法に必要な器具器材の準備と取り扱いができる。 ・口腔外科の器具・器材の説明、取り扱いができる。 ・補綴の診療補助の術式の説明、使用器材の準備ができる。 ・義歯の取り扱いと作成の流れがわかる。 ・矯正治療に必要な器具器材がわかる。						
計画・(内容)						担 当
前期						
1 合同授業 (口腔内観察・アセスメント、口腔ケア)						渡邊
2 合同授業 (口腔内観察・アセスメント、口腔ケア)						渡邊
3 患者資料の収集① (口腔内規格写真撮影 側面観ミラー像)						永橋
4 患者資料の収集① (口腔内規格写真撮影 側面観ミラー像)						永橋
5 保存修復の診療補助 (歯間分離・隔壁講義)						渡邊
6 材料の取り扱い (ブローチ綿花)						渡邊
7 歯内療法の診療補助 (分類と治療の流れ、使用器具 講義)						永橋
8 アルジネート印象採得 相互実習 (個人トレー用・ホワイトニング用)						永橋
9 アルジネート印象採得 相互実習 (個人トレー用・ホワイトニング用)						永橋
10 保存修復の診療補助 (歯間分離・隔壁演習・グラスアイオノマーセメント修復 講義)						渡邊
11 保存修復の診療補助 (グラスアイオノマーセメント修復 演習)						渡邊
12 保存修復の診療補助 (コンポジットレジン・接着システム講義)						渡邊
13 保存修復の診療補助 (コンポジットレジン充填演習①)						渡邊
14 歯内療法の診療補助 (麻酔抜髄 講義)						永橋
15 歯内療法の診療補助 (麻酔抜髄 講義)						永橋
16 保存修復の診療補助 (コンポジットレジン充填演習②)						渡邊
17 歯内療法の診療補助 (根管治療、根管充填 講義)						永橋
18 歯内療法の診療補助 (根管治療、根管充填 アシスタント業務演習)						永橋
19 口腔外科の診療補助 (麻酔の種類、縫合講義)						渡邊
20 実技試験① (コンポジットレジン充填・ブローチ綿花)						渡邊・永橋
21 口腔外科の診療補助 (麻酔・縫合演習)						渡邊
22 口腔外科の診療補助 (抜歯準備・使用器材)						渡邊
23 トレーセッティング (義歯作製の流れ)						永橋
24 補綴の診療補助 (義歯調整・リベース・リライン)						永橋
25 口腔外科の診療補助 (麻酔・縫合演習)						渡邊
26 補綴の診療補助 (個人トレー作製)						渡邊
27 補綴の診療補助 (筋形成 モデリングコンパウンド取り扱い演習)						渡邊
28 補綴の診療補助 (ラバー印象演習)						渡邊
29 矯正歯科の診療補助 (矯正用器材と取り扱い)						渡邊
後期						
30 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製①既製冠)						永橋
31 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製②印象法)						永橋
32 歯周治療の診療補助① (歯周外科の術式、流れと使用器材、歯周パック講義)						永橋
33 歯周治療の診療補助② (歯周外科の術式、流れと使用器材)						永橋
34 歯周治療の診療補助③ (歯周外科の術式、流れと使用器材)						永橋
35 歯周治療の診療補助③ (歯周外科の術式、流れと使用器材)						永橋
36 口腔外科の診療補助 (小手術の使用器材 講義)						渡邊
37 口腔外科の診療補助 (小手術の使用器材 演習)						渡邊
38 口腔外科の診療補助 (小手術の使用器材 演習)						渡邊
39 矯正歯科の診療補助 (ダイレクトボンディング法実習)						渡邊
40 矯正歯科の診療補助 (結紮法実習)						渡邊
41 矯正歯科の診療補助 (ダイボンディング・患者指導 講義)						渡邊
42 矯正歯科の診療補助 (患者指導 演習)						渡邊
43 実技試験② (外科器具)						渡邊・永橋
44 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製③手ごね法)						永橋
45 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製③手ごね法)						永橋
教本・参考図書				評価方法		
最新歯科衛生教本 歯科診療補助・歯科材料・歯科器械				【前期】筆記試験 80点・実技試験① 20点 合計100点		
※ 最新歯科衛生教本 保存修復・歯内療法・歯周病学・歯科補綴				【後期】筆記試験 80点・実技試験② 20点 合計100点		
※ 最新歯科衛生教本 矯正歯科/口腔外科・歯科麻酔				※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする		
留意事項						
授業時間内に確認問題を行う場合あり						
忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。						
実習室で実習の場合は、演習前には始業点検を終了しておくこと						
演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること						
教本 (※) 保存修復・歯内療法、口腔外科・歯科麻酔、歯科補綴、矯正歯科、歯周病学、授業の際に使用 (その他指示された教本を準備すること)						

教科名	看護学	時 期	2年 前期	担当者	木戸口 詠	実務・一般 看護師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義 ・ 演習		富樫 信	実務・一般 臨床検査技師
概 要 ・ チーム医療の定義、必要性を学び理解することができる(木戸口) ・ 対象の状態に応じたバイタルサイン測定を学ぶことができる(木戸口) ・ 歯科衛生士に必要な看護実務を学ぶ(木戸口) ・ 歯科診療にあたり、患者の全身状態を把握することが重要である。患者の全身状態は臨床検査結果に反映されることから臨床検査に関し正しく理解することが重要であり、講義を通じて習得する。(富樫)						
到達目標 1 バイタルサインの必要性、意味を理解することができる(木戸口) 2 状態や特徴を考慮し、対象への介入方法、関わり方を学ぶことができる(木戸口) 3 チーム医療の有用性が理解できる(木戸口) 4 臨床検査は大別して心機能検査や超音波検査等の直接患者の身体を検査する生理機能検査と患者から採取した検査材料を用いて行う検体検査がある。歯科診療を受ける患者の健康状態を把握するうえで必要な検査の種類や臨床的意義等を学び、得られた検査結果を正しく評価し、診療に貢献できるよう知識を習得する。(富樫)						
計画・(内容)						担 当
1 看護の概念、看護とは(定義、チーム医療について)						木戸口
2 看護技術(バイタルサイン・・・血圧測定等実際にやって学ぶ)						木戸口
3 対象者とのコミュニケーション(実際に声掛けやシチュエーションを想定して行う)						木戸口
4 移動、移乗動作(車椅子やベッド上からの移動、移乗動作に加えm声掛けや方法を学ぶ)						木戸口
5 チーム医療について(教科書をベースとし、実際に病院で起こった事例をあげ、グループワークにて学ぶ)						木戸口
6 救急場面(簡易的にBLSを説明し、人を呼ぶ・心臓マッサージを実践的に体験し、実際の事例も合わせて学ぶ)						木戸口
8 まとめ(第1回からの振り返り、理解を深めるとともに、国家試験の問題にも触れる)						木戸口
7 臨床検査の世界 (パワーポイントで作成した資料を用いて検査を行っている現場を紹介、検査実施から報告まで)						富樫
9 臨床検査とは (誰がどのように検査を行っているのか、種々の生理機能検査や検体検査の概要を説明)						富樫
10 生体検査 (脈波、血圧、心機能、肺機能、超音波など)						富樫
11 血液検査 (血液一般検査、凝固検査、線溶系検査など)						富樫
12 生化学検査 (肝機能、腎機能、糖代謝、免疫・血清検査など)						富樫
13 血液型・感染症検査 (ABO式・Rh式血液型、HBV, HCV, COVID-19等の感染症検査(PCR検査含む))						富樫
14 病理検査 (病理組織検査、細胞診検査、病理解剖など)						富樫
15 主な疾患・病態別検査値のとらえ方～こんな患者が来院したら～						富樫
教本・参考図書 ・ 歯科衛生学シリーズ 臨床検査 (富樫) ・ 歯科衛生士のための看護学大意 (木戸口) ・ ナーシングメソッド (木戸口)				評価方法 - 筆記試験(50点) 【木戸口】 - 筆記試験(50点) 【富樫】 - 合計 100点		
留意事項 ・ 教科書を読んで説明し、実際に体を動かしたり、話し合っで学んだり、元気に学んでほしいです。 ・ 授業終了後、確認問題を提示、知識の整理や要点を確認し習得の効率化を図る。確認問題は繰り返し行い、知識を身につけるよう努めること(富樫)						

教科名	臨地・臨床実習	時 期	2年	担当者	実習指導者 (登録者)	実務	歯科医師 歯科衛生士
単位(時間数)	11 (330)	形 態	実 習				
概 要							
学校内で習得した知識や技術を、臨床の場において実践できる能力を養う。特に歯科衛生士の三大業務である『歯科予防処置』『歯科保健指導』『歯科診療補助』の理解を深める 歯科医療の実際を学び、専門職として自覚を持ち、意欲的に行動する							
到達目標							
(1)診療の流れを把握し症例に応じた診療補助・介助ができる (2)歯周病・う蝕予防におけるプロフェッショナルケアを習得する (3)保健指導の場面において指導内容を分析し、問題解決の方法を予測する (4)臨床の場における対人場面を学び、コミュニケーションスキルやホスピタリティマナーを身に付ける (5)臨機応変さを身につけ、先を読んだ行動ができる							
計画・(内容)							
臨地・臨床実習 函館市内、近郊の歯科診療所での実習 9月～12月 57日間 1日平均6～7時間							
教本・参考図書				評価方法			
				・歯科診療所院長・担当歯科衛生士による評価 100点 (2件の歯科診療所の平均点) 取り組み(意欲・積極性)、態度、コミュニケーション、記録、基礎知識、技術			
留意事項							
履修済みの臨床科目については復習しておくこと。また、実習期間中はアルバイトを入れないほうが好ましい。 実習記録については、実習先の歯科診療所で見学した内容を記録すること。 体調管理を心がけること。欠席・遅刻・早退し実習時間が不足した場合は、公欠・忌引に関わらず補講実習を行う。 合計点が60点に満たない場合は、再実習を行う。							

教科名	OSCE	時 期	2年 前期	担当者	石塚 弘樹 専任教員	実務	歯科医師 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義 ・ 演習				
概 要							
OSCE(客観的臨床能力試験)は、医療職を目指す学生が、臨床現場で必要となる実践的な能力を客観的に評価するための実技試験 である。 本科目は臨床現場で安全に医療を行うために必要な実践力が備わっているかを、客観的で公平な方法で評価し、教育と医療の質向上につなげることを目的とする。							
到 達 目 標							
・ 齶蝕・充填物・補綴物などの所見を、指定された記号や様式に従って正確に記入できる。 ・ CR充填に必要な器具・材料を把握し、操作手順にて術者への受け渡しができる。 ・ カルテの情報をよみとり、必要な器具器材を準備できる。 ・ 処置内容に応じて必要な器具・材料を正しく選択し、使用する順番に準備できる。 ・ 術野の水分・唾液・切削片を適切に吸引し、部位に合わせた適切なライティングができる。 ・ 正しい姿勢・手技で印象採得を実施し、気泡や変形の少ない印象を採得できる。 ・ う蝕、歯周病、全身疾患との関連性を理解し、患者にわかりやすく説明ができる。 ・ 抜歯に必要な器具・材料を正しく準備し、抜歯後の注意事項を患者にわかりやすく説明できる							
計画・(内容)							担 当
1 ガイダンス (OSCE 内容 ・ 評価項目説明)							渡邊
2 成人期の個人指導 (糖尿病 / 喫煙)							千葉
3 バキューム操作・ライティング (直)							石塚
4 バキューム操作・ライティング (曲)							千葉
5 CR準備アシスタント							渡邊
6 歯式の記入							渡邊
7 アルジネート印象材を使用した概形印象							渡邊
8 トレーセッティング (FMC調整 / 義歯調整)							三浦
9 トレーセッティング (麻酔抜髄 / 根管充填)							永橋
10 トレーセッティング (抜歯 / 抜歯の注意)							渡邊
11 カルテの読み取り (義歯作成 / C病名 / P病名 / Pul / Per)							永橋
12 2～6 までの演習							担当教員
13							〃
14 7～11 までの演習							〃
15							
教本・参考図書 歯科診療補助 口腔外科・歯科麻酔 口腔保健管理 保存修復・歯内療法 歯科補綴 歯科機器 歯科材料				評価方法 1項目10点×10項目＝100点			
留意事項							

教科名	学級コミュニケーション	時 期	2年前後期	担当者	三浦 伸子	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義・演習		専任教員	
概 要						
構成的グループエンカウンター、QU、一般教養などを通じて豊かな人間性と社会性を育む 定期試験やOSCE合格に向けての方策を立て、クラス一丸となり協力して合格を目指す 中間学年として、他学年との交流を図り親睦を深めるため、学校行事等の内容を企画・準備する						
到達目標						
コミュニケーションスキル、ホスピタリティマナーを身につける 定期試験、オスキー合格に向けた学習方法が分かる 2年生としての自覚を持ち、行事等でリーダーシップを発揮できる 円滑な人間関係を構築するため、自己開示と他者理解ができる						
計画・(内容)						
1 係決め、クラス目標(KJ法)、個人目標設定(OSCE・臨地臨床実習・国家試験に向けて)						
2 学習・OSCE計画(3講目時間の活用について) ・お花見						
3 歯と口の健康週間について(動画作成準備)						
4 QU 状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						
5 短大幼稚園歯みがき教室について						
6 試験対策・災害について						
7 ストレスマネジメント						
8 OSCE対策・注意事項						
9 SNSについて(DVD:医療人としての心構え)						
10 マイナビ講座(社会人基礎力)						
11 スポーツ交流会について						
12 後期個人目標、激励会準備						
13 課題研究について						
14 状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						
15 試験対策・状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						
※内容により担当・順序が変わることがあります						
教本・参考図書				評価方法 定期試験 なし 単位修得のための出席確認		
留意事項 グループワーク及び発表には積極的に参加すること。 行事では積極的に行動し、楽しむこと。また、全員が楽しめるよう周囲の状況をよく観察し工夫すること。 学校行事の準備はクラス全員で協力し合うこと。 最低、月に一度は5Sを実施し清潔に心がけること。						

3年生



教育課程

分野	教育内容	学科目	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎	科学的思考の基礎	生物	2	30	30		
		情報処理	2	30	30		
		衛生統計	1	15		15	
	人間と社会の理解	英語コミュニケーション	1	20	20		
		心理学Ⅰ	1	20	20		
		心理学Ⅱ	1	20		20	
		国語表現	2	30	30		
小計		10	165	130	35		
専門基礎	人体(歯と口腔を除く)の構造と機能	解剖・生理	3	45	45		
		生化学	1	15	15		
	歯・口腔の構造と機能	口腔組織	1	15	15		
		口腔生化学	1	15	15		
		口腔解剖	2	30	30		
		歯牙解剖	1	15	15		
		口腔生理	1	15	15		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	30	30		
		薬理学	2	30		30	
		微生物学	2	30	30		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	保健生態学Ⅰ	2	30	30		
		保健生態学Ⅱ	3	45		15	30
		衛生行政	1	15			15
		社会福祉	1	15			15
小計		23	345	240	45	60	
専門	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	1	15	15		
		歯科医療倫理	1	15		15	
	臨床歯科医学	保存修復	1	20	20		
		歯内療法	1	20	20		
		歯周疾患	1	30	30		
		放射線	1	30		30	
		歯科補綴	1	30		30	
		矯正歯科	1	30		30	
		小児歯科	1	20		20	
		口腔外科	2	40		40	
		障がい者歯科	1	15		15	
		高齢者・有病者歯科	1	30		30	
	歯科予防処置論	口腔保健管理Ⅰ	5	200	200		
		口腔保健管理Ⅱ	4	160		160	
	歯科保健指導論	口腔保健管理Ⅲ	2	80			80
		栄養指導	1	30			30
		摂食嚥下	1	15		15	
		口腔リハビリテーション	1	20		20	
		地域包括ケア	1	15			15
	歯科診療補助論	診療補助Ⅰ	3	120	120		
		診療補助Ⅱ	2	80		80	
		診療補助Ⅲ	1	40			40
		看護学	1	30		30	
		介護概論	1	15		15	
		介護技術	1	40		40	
	臨地・臨床実習	臨地・臨床実習	20	900	90	360	450
小計		57	2040	495	930	615	
選択必修	選択・必修分野	接遇・マナー	1	15	15		
		体育	1	40	40		
		歯科医療事務	2	40			40
		学級コミュニケーション	4	160	80	40	40
		課題研究	2	60		30	30
		総合講義	4	120			120
	小計		14	435	135	70	230
合計		104	2985	1000	1080	905	

※ 1単位・・・講義 15～30時間

実技・演習 40時間

実習 45時間

授 業 進 度 表

		3年前期					3年後期						
科目	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保 健 生 態 学 II	68						●	————	●				
衛 生 行 政	69						●	————	●				
社 会 福 祉	70						●	————	●				
口 腔 保 健 管 理 III	71-72	●●					●	————	●				
栄 養 指 導	73						●	————	●				
地 域 包 括 ケ ア	74						●	————	●				
診 療 補 助 III	75	●●					●	————	●				
臨 地 ・ 臨 床 実 習	76	●	————	————	————	●							
歯 科 医 療 事 務	77	●					●●						
学級コミュニケーション	78	●●				●	●	————	●		●●		
課 題 研 究	79	●					●	————	●				
総 合 講 義	80								●	————	●	●●	

教科名	保健生態学Ⅱ	時期	3年 後期	担当者	岩井 祐司	実務・一般 歯科医師
					奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士
					渡邊 恵里	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形態	講義			
概要						
保健生態学は、衛生学・公衆衛生学および口腔衛生学を一連のものとして捕らえた学問です。その内容は3編に分割して、Ⅰ編『健康を左右する環境』、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』、Ⅲ編『健康に関わる地域の役割』となっております。 この授業では、『Ⅲ編 健康に関わる地域の役割』を中心に学びます。公衆衛生学と公衆歯科衛生学を1つにして『地域保健とし、集団を対象とした疾病予防と健康増進について行政の面からとらえ、地域の保健活動について学ぶ。』 なお、『Ⅰ編 健康を左右する環境』から、5章感染症と、6章食品と健康についても併せて学びます。						
到達目標						
1 地域保健の組織および基本的な進め方を理解できる。(奥) 2 母子保健の目的および概要、そしてこれに関わる歯科衛生士として必要な知識を習得する。(奥) 3 学校保健の保健教育、保健管理を説明できる(奥) 4 生活習慣病のリスクファクターを列挙できる(奥) 5 高齢者の保健対策に係る保険制度と法律を説明できる(奥) 6 感染症の概念と感染成立の三要因について説明できる(岩井) 7 感染予防、流行防止の対策および感染症対策の体系と内容がわかる(岩井) 8 産業衛生に関する法規がわかる(岩井) 9 職業性疾病を起こす要因がわかる(岩井) 10 精神保健の定義、意義を説明できる(岩井) 11 精神保健活動の現状と歯科保健の問題点を説明できる(岩井) 12 国により、保健の発達程度が異なるため、国々の協力が必要なことを理解できる(岩井) 13 WHOやJICAの活動を理解できる(岩井) 14 食中毒の分類と特徴を説明できる(渡邊)						
計画・(内容)						担当
《Ⅲ編 健康に関わる地域の役割》						
1章 地域保健・公衆衛生						
1. 地域保健を担う組織の仕組みと特徴について学ぶ						奥
2. ヘルスプロモーションやノーマライゼーションなどの地域保健の概念を学ぶ。 地域保健活動の基本的な進め方と具体的アプローチについて学ぶ。						奥
3. 地域歯科保健に関係する保健福祉関係の施策と法律について学ぶ。特に活動の評価を重点的に学ぶ。						奥
2章 母子保健						
4. 母子保健の概略と、『健やか親子21』について学ぶ。 1歳6か月児・3歳児健康診査について学び、罹患型の分類を理解する						奥
3章 学校保健						
5. 学校保健の意義と概要、学校保健の活動と組織、学校保健の3領域について						奥
6. 学校歯科保健の概要と、学校歯科健康診断での記載内容や事後処置など歯科衛生士の役割を学ぶ。						奥
4章 成人保健						
7. 成人保健活動の現状と対策について学ぶ						奥
5章 産業保健						
8. 産業衛生に関する法規、職業性疾患、産業保健管理、産業保健活動について						岩井
6章 老人(高齢者)保健						
9. 老人(高齢者)のための行政組織と法律について学ぶ						奥
7章 精神保健						
10. 精神保健の意義、医療、精神障がい者の歯科保健について学ぶ						岩井
9章 国際保健						
11. 国際協力と口腔保健戦略について学ぶ						岩井
《Ⅰ編 健康を左右する環境》						
5章 感染症						
12. 感染症発症の要因について						岩井
13. 感染症の予防について						岩井
14. 感染症対策、特に感染症法及びその他の法規について						岩井
6章 食品と健康						
15. ①食中毒 ②食品の安全性 ③国民の栄養とその問題(栄養素、生活習慣病とメタボリック) ④食育						渡邊
教本・参考図書					評価方法	
医歯薬出版 歯科衛生士シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学					筆記試験	50点【奥】 10点【渡邊】
						40点【岩井】
					合計 100点	
留意事項						
授業はオムニバス形式につき、上記計画(内容)は授業の順とは異なります。						
授業の進行は、時間割にて確認してください。						

教科名	衛生行政	時 期	3年 後期	担当者	永盛 恒男	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要						
・ 法学の基本概念、衛生行政の仕組、いわゆる歯科三法を中心に、その衛生関連の法律を学ぶ。 ・ 歯科衛生士の免許制度、歯科衛生士の義務についても学ぶ。						
到達目標						
1 行政、特に衛生行政の仕組について理解できる 2 法律の条文について正確に読み、かつ理解できる 3 医療の動向や各種統計についても関心をもち理解できる						
計画・(内容)						
1 講義全体のアウトライン、学習のポイントの説明 2 法制概論（法の定義、種類など、法学の基本概念） 3 法制概論（衛生法規を中心に） 4 衛生行政の概要（行政の定義、衛生行政の目的、沿革、歯科衛生行政） 5 医療の動向（国民の健康、医療施設及び関係者の現況、各種統計） 6 歯科関係三法（歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法） 7 歯科関係三法（歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法） 8 その他の関係法規（医療法、医師法、地域保健法、その他の法律） 及び講義全体の復習（重要事項の再確認）						
教本・参考図書				評価方法		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度				筆記試験（100点）		
留意事項						

教科名	社会福祉	時 期	3年 後期	担当者	寺尾 賢一	実務・一般 社会福祉士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要						
・テキストの内容や関連する制度の理解を深め、社会福祉制度と医療の社会保障制度との関連、それが患者さんの生活にどのように関連しているか理解を深めていく力を養う。						
到達目標						
1 社会保障の種類とその特徴について概説できる 2 医療保険の種類とその法律について概説できる 3 介護保険制度の仕組みについて概説できる 4 年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険について概説できる 5 歯科衛生士に關係する社会福祉制度について概説できる						
計画・(内容)						
1 オリエンテーション（社会保障・社会福祉とは何かについて） 2 社会保障概論（医療と福祉の連携の重要性について） 3 社会保険（医療保険制度の重要性について） 4 〃 （医療保険制度の内容について） 5 〃 （介護保険制度について） 6 〃 （その他の社会保険制度について） 7 社会福祉（生活保護制度、児童福祉、高齢者福祉について） 8 〃 （障がい者(児)福祉について/相談援助技術について）						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度				評価方法 筆記試験 100点		
留意事項 ・レジメを配布するので、熟読すること。 ・福祉に関するテレビ番組、報道について関心を持ってみること。 ・授業内で適時復習問題を行います。						

教科名	診療補助Ⅲ	時 期	3年 前期・後期	担当者	渡邊 恵里 永橋 茜	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (40)	形 態	講義・実技・演習			
概 要 様々なライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり、診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 3年生では臨床現場で実践できる診療補助の基礎能力と国家試験に対応できる知識を身につける。 高齢者の口腔の疾患状況に応じた口腔ケア・歯科訪問診療について学ぶ。						
到達目標						
・高齢者の口腔内観察ができる ・高齢者のアセスメントの方法がわかる ・高齢者の口腔ケア、口腔機能訓練ができる ・訪問歯科診療の意義がわかる ・補綴に使用する材料・器具がわかる ・周術期歯科診療がわかる ・ホワイトニングの方法がわかる ・訪問や居宅での歯科治療を理解する						
計画・(内容)						担 当
前期						
1 周術期における歯科診療の補助						渡邊
2 周術期における歯科衛生管理						渡邊
3 ポスト印象(演習)						永橋
4 要介護高齢者の診療補助 (症例施設編、口腔内観察、バイタルチェック血圧、アセスメント、口腔ケア演習)						永橋
5 要介護高齢者の診療補助 (症例施設編、口腔内観察、アセスメント、口腔ケア演習モアブラシ、口腔機能訓練演習)						永橋
6 合同授業 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア、口腔機能訓練演習)						渡邊
7 合同授業 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア、口腔機能訓練演習)						渡邊
後期						
8 口腔観察用機器等歯科機器						渡邊
9 居宅歯科医療(居宅歯科医療の制度・多職種連携)						永橋
10 CR充填(演習)						永橋
11 居宅療養者の口腔健康管理 演習②						渡邊
12 居宅療養者の口腔健康管理 演習①						永橋
13 補綴の診療補助 (印象採得～レジンインレー装着まで)						永橋
14 まとめ① (医療安全)						渡邊
15 まとめ② (消毒・滅菌)						渡邊
16 まとめ③ (印象材・石膏)						渡邊
17 まとめ④ (合着材・接着材)						渡邊
18 まとめ⑤ (仮封材/切削用機器)						永橋
19 まとめ⑥ (圧排/ラバーダム/レーザー)						永橋
20 まとめ⑦ (ホワイトニング/ワックス)						永橋
教本・参考図書 最新歯科衛生教本 歯科診療補助 最新歯科衛生教本 歯科器機 最新歯科衛生教本 歯科材料 ※その他必要な教本がある場合は指示します				評価方法 前期 なし 後期 筆記試験(100点)		
留意事項 配布されたプリントは、予習復習となるため、指示に従い講義時間外に必ず行うこと グループワーク及び発表には積極的に参加すること 授業時間内に確認問題を行う場合あり 忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習には参加できません 演習前には始業点検を終了しておくこと 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること						

教科名	口腔保健管理Ⅲ	時 期	3年 前期・後期	担当者	千葉 佳鈴 渡邊 佳子 三浦 伸子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	2 (80)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
・患者設定相互実習を通して、実際の歯周病の病態を知ることにより、歯周病予防についての判断・処置を行える能力を養う。 ・各々のライフステージにおける特徴を理解し、歯周病を増悪させるリスクファクターに対する歯周病予防の指導を身に付け生涯を通して人々が健康を維持・増進するための予防法を学ぶ。							
到達目標							
1相互実習を通して患者対応を学び、歯周病における情報収集・歯周基本検査を行い、データに基いた指導・処置ができる。 2患者設定相互実習では喫煙者・糖尿病に対する歯周病のリスクについての理解を深め、分かりやすい指導ができる。 3症例別検討では歯周病の中等度から重度の口腔内を理解し、改善に向けての指導ができる。 4災害時における歯科衛生士の役割を理解する。 5居宅療養管理指導における歯科衛生士の役割を理解し、多職種との連携について知る。 6地域保健活動のフィールド(中学校、高齢者)で健康教室を実施できる							
計画・(内容)							担 当
前期							
1 有病者の口腔保健管理(急性期・留意すべき全身疾患)							三浦
2 歯科衛生介入①(1人術者での相互実習)							渡邊
3 歯科衛生介入①(1人術者での相互実習)							渡邊
4 歯科衛生介入②(情報処理)							千葉
5 患者設定における状況設定相互演習 (高齢者対応 相互実習)							三浦
6 患者設定における状況設定相互演習 (高齢者対応 相互実習)							三浦
7 認知症患者における食事観察(ミールラウンド)							千葉
8 歯科衛生介入③(1人術者での相互実習)							渡邊
9 歯科衛生介入③(1人術者での相互実習)							渡邊
10 施設実習における集団指導(健口教室の内容検討)							三浦
後期							
11 キュレットスケーラー操作							千葉
12 キュレットスケーラー操作							千葉
13 老年期における集団指導①(概要)							三浦
14 老年期における集団指導②(健口教室準備)							三浦
15 歯科衛生介入④(1人術者での相互実習)							渡邊
16 歯科衛生介入④(1人術者での相互実習)							渡邊
17 キュレットスケーラー操作試験							千葉
18 キュレットスケーラー操作試験							千葉
19 老年期における集団指導③(健口教室準備)							三浦
20 老年期における集団指導④(健口教室準備)							三浦
21 老年期における集団指導⑤(健口教室リハーサル)							三浦
※ 演習授業については、科目担当教員(千葉・渡邊・三浦)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				実技試験(1項目評価 10点)			
最新歯科衛生士教本 高齢者歯科				筆記試験(90点) 合計100点			
最新歯科衛生士教本 歯周病学				試験は後期に前後期分を行う			
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション				※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする			
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習の際に必要となるため、指示に従い使用・保管すること 演習、グループワーク及び発表の際には、積極的に参加すること 実技の授業を欠席した場合は、後日補講を行う 忘れ物について:白衣・器具・器材の場合は授業を受けることができない / 教科書・プリントの場合はレポート提出となる 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

72

教科名	口腔保健管理Ⅲ	時 期	3年 前期・後期	担当者	千葉 佳鈴 渡邊 佳子 三浦 伸子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	2 (80)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
・患者設定相互実習を通して、実際の歯周病の病態を知ることにより、歯周病予防についての判断・処置を行える能力を養う。 ・各々のライフステージにおける特徴を理解し、歯周病を増悪させるリスクファクターに対する歯周病予防の指導を身に付け生涯を通して人々が健康を維持・増進するための予防法を学ぶ。							
到達目標							
1相互実習を通して患者対応を学び、歯周病における情報収集・歯周基本検査を行い、データに基いた指導・処置ができる。 2患者設定相互実習では喫煙者・糖尿病に対する歯周病のリスクについての理解を深め、分かりやすい指導ができる。 3症例別検討では歯周病の中等度から重度の口腔内を理解し、改善に向けての指導ができる。 4災害時における歯科衛生士の役割を理解する。 5居宅療養管理指導における歯科衛生士の役割を理解し、多職種との連携について知る。 6地域保健活動のフィールド(中学校、高齢者)で健康教室を実施できる							
計画・(内容)							担 当
22 歯科衛生介入⑤(情報処理・評価)							渡邊
23 学齢期における集団指導①(概要)							千葉
24 学齢期における集団指導②(中学校健康教室準備・練習)							千葉
25 老年期における集団指導⑥(健口教室実施-1)							三浦
26 老年期における集団指導⑦(健口教室実施-2)							三浦
27 学齢期における集団指導③(リハーサル)							千葉
28 学齢期における集団指導④(リハーサル)							千葉
29 学齢期における集団指導⑤(リハーサル)							千葉
30 学齢期における集団指導⑥(実施)							千葉
31 学齢期における集団指導⑦(実施)							千葉
32 国家試験対策① まとめ							三浦
33 歯科衛生介入⑥(1人術者での相互実習)							渡邊
34 歯科衛生介入⑥(1人術者での相互実習)							渡邊
35 歯科衛生介入⑦(情報処理)							渡邊
36 歯科衛生介入⑧(発表7)							渡邊
37 国家試験対策② まとめ							三浦
38 国家試験対策③ まとめ							千葉
39 国家試験対策④ まとめ							渡邊
40 国家試験対策⑤ まとめ							三浦
※ 演習授業については、科目担当教員(千葉・渡邊・三浦)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				実技試験(1項目評価 10点)			
最新歯科衛生士教本 高齢者歯科				筆記試験(90点) 合計100点			
最新歯科衛生士教本 歯周病学				試験は後期に前後期分を行う			
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション				※前期50%、後期50%、合計100%として後期の成績とする			
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習の際に必要となるため、指示に従い使用・保管すること 演習、グループワーク及び発表の際には、積極的に参加すること 実技の授業を欠席した場合は、後日補講を行う 忘れ物について: 白衣・器具・器材の場合は授業を受けることができない/ 教科書・プリントの場合はレポート提出となる 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	栄養指導	時期	3年 後期	担当者	佐賀 暁美	実務・一般 管理栄養士
単位(時間数)	2 (30)	形態	講義		渡邊 恵里	実務・一般 歯科衛生士
概 要 ・食物を口から咀嚼・嚥下し、各栄養素が消化・吸収され、体内で代謝されていく過程の知識を深め、疾患も含めた栄養(食事)の在り方を学ぶ。(佐賀) ・日本人の栄養摂取状況の実態を把握し、食事摂取基準を理解することで、食品をバランスよく組み合わせ「望ましい食生活」へと、個々にわかりやすく導くことを学ぶ。(佐賀) ・健康維持のために、栄養と口腔状態との重要性が近年取り上げられることから、食品(栄養素)とう蝕・歯周疾患をライフステージ別・傷病者などの特徴と結びつけながら学ぶ。(渡邊・佐賀)						
到達目標 1 各栄養素の消化・吸収による代謝から、働きや健康・疾病を概説できる (佐賀) 2 食事摂取基準をもとに、日本人の食生活の問題点を理解し改善につなげることができる (佐賀) 3 傷病者・高齢者などの栄養評価と特徴を結び付けることができる (佐賀) 4 特別用途食品と保健機能食品の違いがわかる(渡邊) 5 ライフステージ別の食生活指導内容がわかる(渡邊) 6 国家試験関連問題が解ける(渡邊)						
計画・(内容)						担 当
1 栄養の基礎知識 (人体における消化・吸収作用・代謝について)						佐賀
2 日本人の食事摂取基準2020 (基礎代謝量・エネルギー必要量など)						佐賀
3 栄養素の働き① (炭水化物・たんぱく質の栄養的意味など)						佐賀
4 栄養素の働き② (脂質・ビタミンの栄養的意味など)						佐賀
5 栄養素の働き③ (ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味など)						佐賀
6 食生活と健康① (栄養と疾病の現状からの課題・国民栄養調査など)						佐賀
7 食生活と健康② (健康日本21・バランスガイド・食育基本法など)						佐賀
8 食生活と健康③ (ライフステージ別の栄養と調理 乳児・幼児・学童・思春期(食育を含む))						佐賀
9 食生活と健康④ (ライフステージ別の栄養と調理 成人・妊娠・授乳・高齢期)						佐賀
10 食べ物と健康 (食品成分表・食品分類・6つの基礎食品・五味の相互作用など)						佐賀
11 特別用途食品と保健機能食品						渡邊
12 ライフステージ別歯科保健指導(妊産婦期・乳児期)						渡邊
13 ライフステージ別歯科保健指導(幼児期学齢期・青年期)						渡邊
14 ライフステージ別歯科保健指導(成人期・老年期)						渡邊
15 食事摂取基準/国家試験対策						渡邊
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 歯科予防処置論・歯科保健指導論				評価方法 筆記試験60% 【佐賀】 筆記試験40% 【渡邊】 合計 100点		
留意事項						

教科名	地域包括ケア	時 期	3年・後期	担当者	東 清美	実務・一般	主任ケアマネジャー
					佐藤 美知子	実務・一般	理学療法士
					野田 正貴	実務・一般	作業療法士
					川村 曜補	実務・一般	歯科医師
					杉本 景子	実務・一般	歯科衛生士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義		奥 ひろみ	実務・一般	歯科衛生士
概 要							
地域包括ケアシステムとは、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることが出来るよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される仕組みである。この地域包括ケアシステムを推進するうえで、多職種の連携、協働は重要であり、そのなかで歯科衛生士としてどのように関わっていくべきかを学ばなければならない。 本科目では、地域包括ケアシステムの考えを理解し、各職種の役割と活動の実際を学ぶ。							
到達目標							
1. 地域包括支援センターの機能と役割が理解できる 2. 地域包括システムにおける多職種連携について理解できる 3. 在宅歯科医療連携室の機能と役割、活動について理解できる 4. 地域ケア会議の必要性が理解できる							
計画・(内容)							担 当
1. 地域包括ケアシステムについて、概要・地域包括支援センターの機能と役割 2. 地域包括ケアセンターにおける、地域で暮らす高齢者等への支援・地域づくりなどの取り組みについて学ぶ。 3. 多職種連携、協働を図るうえで必要となる職種の特性を知る。 理学療法士の役割、業務や活動の実際を学ぶ。 4. 多職種連携、協働を図るうえで必要となる職種の特性を知る。 作業療法士の役割、業務や活動の実際を学ぶ。 5. 在宅歯科医療連携室の機能と役割について学び、地域歯科保健に携わる者としての意識を高める。 地域歯科医療に携わる中で、DVにつながる前段階でのネグレクト状態を発見できる可能性を有していると自覚する。 (15～20分 スライド) 歯科衛生士として、また地域の大人として、ネグレクトを早期発見する事で、児童が深刻な命の危険にさらされる前に注意喚起を行ったり、多職種との連携での見守りを強化するきっかけづくりができることを自覚する。 ヤングケアラーについて理解し、地域歯科医療に携わる中でその専門領域から支援を行い、同時に他機関と連携して包括的に状況を把握していくことができると自覚する。 ・「困難な問題を抱える女性への支援について」 ・児童虐待防止法と女性自立支援法について ・共同親権についての理解(令和8年4月1日施行) 6. 在宅歯科医療連携室における歯科衛生士の役割と、その業務の実際について、事例をもとに学ぶ。 7. 地域ケア会議の必要性とその内容、また歯科口腔保健・歯科医療に携わる専門職としての役割を学ぶ 8. 動画『しまねの地域包括ケア』を観て、多職種連携の実際を学ぶ。							東 東 佐藤 野田 川村 杉本 奥 奥
教本・参考図書				評価方法			
授業ごとにプリント、資料を配布 パワーポイントを使用 DVD視聴 Key note(Mac)を使用 (i Pad持参してアップルTVにて視聴する)				筆記試験 (80点) レポート (20点)第8回の授業内で観る動画について 合計 100点			
留意事項							

教科名	診療補助Ⅲ	時 期	3年 前期・後期	担当者	渡邊 恵里 永橋 茜	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (40)	形 態	講義・実技・演習			
概 要 様々なライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり、診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 3年生では臨床現場で実践できる診療補助の基礎能力と国家試験に対応できる知識を身につける。 高齢者の口腔の疾患状況に応じた口腔ケア・歯科訪問診療について学ぶ。						
到達目標 ・高齢者の口腔内観察ができる ・高齢者のアセスメントの方法がわかる ・高齢者の口腔ケア、口腔機能訓練ができる ・訪問歯科診療の意義がわかる ・補綴に使用する材料・器具がわかる ・周術期歯科診療がわかる ・ホワイトニングの方法がわかる ・訪問や居宅での歯科治療を理解する						
計画・(内容)						担 当
前期						
1 周術期における歯科診療の補助						渡邊
2 周術期における歯科衛生管理						渡邊
3 補綴の診療補助 (印象採得～レジンインレー装着まで)						永橋
4 要介護高齢者の診療補助 (症例施設編、口腔内観察、バイタルチェック血圧、アセスメント、口腔ケア演習)						永橋
5 要介護高齢者の診療補助 (症例施設編、口腔内観察、アセスメント、口腔ケア演習モアプラン、口腔機能訓練演習)						渡邊・永橋
6 合同授業 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア、口腔機能訓練演習)						渡邊
7 合同授業 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア、口腔機能訓練演習)						渡邊
後期						
8 口腔観察用機器等歯科機器						永橋
9 居宅歯科医療(居宅歯科医療の制度・多職種連携)						渡邊
10 居宅療養者の口腔健康管理 演習①						渡邊
11 居宅療養者の口腔健康管理 演習②						渡邊
12 CR充填(演習)						永橋
13 ポスト印象(演習)						永橋
14 まとめ① (医療安全)						渡邊
15 まとめ② (消毒・滅菌)						渡邊
16 まとめ③ (印象材・石膏)						渡邊
17 まとめ④ (合着材・接着材)						渡邊
18 まとめ⑤ (仮封材/切削用機器)						永橋
19 まとめ⑥ (圧排/ラバーダム/レーザー)						永橋
20 まとめ⑦ (ホワイトニング/ワックス)						永橋
教本・参考図書 最新歯科衛生教本 歯科診療補助 最新歯科衛生教本 歯科器機 最新歯科衛生教本 歯科材料 ※その他必要な教本がある場合は指示します				評価方法 前期 なし 後期 筆記試験(100点)		
留意事項 配布されたプリントは、予習復習となるため、指示に従い講義時間外に必ず行うこと グループワーク及び発表には積極的に参加すること 授業時間内に確認問題を行う場合あり 忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習には参加できません 演習前には始業点検を終了しておくこと 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること						

教科名	臨地・臨床実習	時 期	3年	担当者	実習指導者 (登録者)	実務 歯科医師・看護師 歯科衛生士 介護福祉士																				
単位(時間数)	10(450)	形 態	実 習																							
概 要 歯科衛生士業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士としての必要な知識・技術および態度を身に付ける。 歯科診療所における受付業務の一連の流れを学ぶ。 最終学年での臨床実習であることを自覚し、将来への方向性を見出す。 総合病院では口腔外科治療、有病者歯科診療を見学し、その特徴や患者対応、総合病院のなかでの歯科の役割を学ぶ。 病棟実習では歯科衛生士の専門的口腔ケアの見学、多職種との連携を学ぶ。また、指導者の指示のもと粘膜ケア、残存歯のブラッシング、義歯の清掃などを実施する。高齢者施設では食事介助をはじめとした介護技術の習得とコミュニケーションについて学び、歯科衛生士の指示のもと実際に口腔ケアを実施する。																										
到達目標																										
歯科診療所 行われている治療内容と病名が理解できる 歯周病における口腔内観察ができる 幼児期、学齢期の口腔衛生指導ができる 歯科医師、歯科衛生士や他職種と協同・連携ができる プライバシーを配慮した態度で対応できる 口腔保健センター 障がい者の特徴がわかる 障がい者診療の上での注意事項、対応方法がわかる 総合病院 口腔外科の症例について説明できる 口腔外科診療の術式と準備するものがわかる 有病者診療の上での注意事項、対応がわかる 病棟実習 口腔機能管理、口腔ケアの流れについて説明できる(回復期、急性期、慢性期の場合もある) 指導者のもと器質的口腔ケアを実施できる 高齢者施設 状況に応じた介護・支援ができる ホスピタリティマナーを理解し、コミュニケーションをとる事ができる 口腔内の観察ができる 口腔ケアを実践できる																										
計画・(内容)																										
臨地・臨床実習 函館市内、近郊の歯科診療所での実習 函館市内、近郊の高齢者施設での実習 口腔保健センター、総合病院での実習 4月～8月 74日間 450時間 <table><tr><td>歯科診療所</td><td>1 日 約 6 時間</td><td>5 6 日間</td><td>324時間</td></tr><tr><td>高齢者施設</td><td>1 日 7 時間</td><td>1 0 日間</td><td>70時間</td></tr><tr><td>総合病院</td><td>1 日 7 時間</td><td>5 日間</td><td>35時間</td></tr><tr><td>口腔保健センター</td><td>1 日 7 時間</td><td>1 日間</td><td>7時間</td></tr><tr><td>病棟</td><td>1 日 7 時間</td><td>2 日間</td><td>14時間</td></tr></table>							歯科診療所	1 日 約 6 時間	5 6 日間	324時間	高齢者施設	1 日 7 時間	1 0 日間	70時間	総合病院	1 日 7 時間	5 日間	35時間	口腔保健センター	1 日 7 時間	1 日間	7時間	病棟	1 日 7 時間	2 日間	14時間
歯科診療所	1 日 約 6 時間	5 6 日間	324時間																							
高齢者施設	1 日 7 時間	1 0 日間	70時間																							
総合病院	1 日 7 時間	5 日間	35時間																							
口腔保健センター	1 日 7 時間	1 日間	7時間																							
病棟	1 日 7 時間	2 日間	14時間																							
教本・参考図書				評価方法 歯科診療所院長 担当歯科衛生士による評価 100点 (2件の歯科医院の平均点) 取り組み(意欲・積極性)、態度 コミュニケーション 記録、基礎知識、技術 ・施設、病院、口腔保健センターの評価なし																						
留意事項 事前オリエンテーションがある場合は必ず参加すること。また、実習記録の提出期限を守ること。 総合病院の口腔外科手術前には症例について予習すること。また、口腔保健センター実習では事前に配布された課題を予習し持参すること。実習期間中は原則としてアルバイトを入れず体調管理を心がけること。 欠席・遅刻・早退し実習時間が不足した場合は、公欠・忌引に関わらず補講実習を行う。合計点が60点に満たない場合は、再実習を行う。																										

教科名	歯科医療事務	時期	3年 前期・後期	担当者	山岸 有子	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	2 (40)	形態	講義・演習		渡邊 佳子	
概 要 ・医療保障制度を学び、カルテの内容を理解し歯科医療事務3級の取得を目指す。						
到達目標 1 保険の種類、負担割合が分かる 2 カルテの内容を理解し、診療行為の流れと関連付けて理解できる 3 病名と診療点数の解釈と応用ができる 4 薬価、麻酔の点数計算ができる 5 診療報酬明細書(レセプト)の記載が正確にできる						
計画・(内容)						担 当
前期 1 保険の基礎知識(医療機関の概要・医療保険のしくみ保険者番号、被保険者証の分類について) 医療保障制度(長寿医療、公費負担医療・保険証を使ってカルテを作成する) 2 歯の基礎知識・傷病名部位、処置名等について 後期 3 基本診療料(①初診料、②再診料) 医学管理等(歯科疾患管理、新製有床義歯管理等) 4 画像診断・検査関連 5 処置①(う蝕処置・歯内療法・歯周病)・症例 1～3 6 処置②(う蝕処置・歯内療法・歯周病)・症例 4～6 7 処置③(う蝕処置・歯内療法・歯周病)・症例 7～9 8 処置④(う蝕処置・歯内療法・歯周病)・症例 10～15 9 処置⑤(歯冠修復・材料)・症例 16 10 処置⑥(手術①) ・症例 25 11 処置⑦(手術②・麻酔) 12 処置⑧ (欠損補綴、ブリッジ・義歯)・症例 17～19 13 処置⑨ (欠損補綴、ブリッジ・義歯)・症例 20～21 14 床適合・歯冠修復物及びブリッジの脱落・再装着・症例 22 15 修理(歯冠修復物・有床義歯)・症例 23, 24 16 投薬・薬価計算① 17 投薬・薬価計算② 18 練習問題 (過去問問題・練習問題) 19 練習問題 (過去問問題・練習問題) 20 練習問題 (過去問問題・練習問題)						山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊 山岸・渡邊
教本・参考図書 歯科保険請求マニュアル(医歯薬出版社) 模擬問題・過去試験問題集 (ソラスト) 歯科診療報酬点数早見表 レセプト用紙				評価方法 歯科医療事務3級試験の合格をもって 可否の基準とする		
留意事項						

教科名	学級コミュニケーション	時 期	3年 前後期	担当者	永橋 茜	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (40)	形 態	講義・演習		専任教員	
概 要						
定期試験・国家試験合格の為にクラスとして取り組み、目標達成のために一人ひとりが協力し合い学びあう クラスメイトと交流を図り、親睦を深める。 グループワークや構成的エンカウンターを行うことにより、他者を理解することや協調性を育む。 学校行事等では最高学年としての自覚を持ちリーダーシップを発揮し、企画・運営を行う。						
到達目標						
コミュニケーションスキル、ホスピタリティマナーを身につける 円滑な人間関係を構築できる 定期試験、資格試験や国家試験にむけた計画・学習方法がわかる クラス全員が定期試験、資格試験合格にむけ協力し合い、学習する習慣を身に着ける 3年生としてリーダーシップを発揮できる						
計画・(内容)					担 当	
1	クラス・個人目標設定、(2年次の反省に基づき目標を設定する)新入生歓迎会について				永橋	
2	学習(国家試験にむけた年間計画・臨床実習中の学習計画)				永橋	
3	就職①				永橋	
4	状況に応じたSL(その時期に必要なと思われる内容を実施する)				永橋	
5	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
6	就職②				永橋	
7	スポーツ交流会①				永橋	
8	スポーツ交流会②				永橋	
9	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
10	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
11	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
12	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
13	状況に応じたSL(その時期に必要なと思われる内容を実施する)				永橋	
14	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
15	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
16	状況に応じたSL(その時期に必要なと思われる内容を実施する)				永橋	
17	学習(冬休み前国家試験に向けた計画・対策)				永橋	
18	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
19	学習(国家試験対策・見直し・計画)				永橋	
20	卒業に向けて				永橋	
※内容により担当、順序が替わること有り						
教本・参考図書				評価方法 定期試験 なし 単位修得の為の出席確認		
留意事項						
国家試験合格を目標とし、達成に向けて計画的に行動すること。 グループワーク及び発表には積極的に参加すること。 行事では積極的に行動し、楽しむこと。また、全員が楽しめるよう周囲の状況をよく観察し工夫すること。 学校行事の準備は全員で協力し合うこと。						

教科名	課題研究	時 期	3年 後期	担当者	奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義		専任教員	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
歯科衛生の実践に根ざした学術研究は、歯科衛生業務を確立し、発展させるために欠かせないことである。歯科衛生研究の目的である、歯科衛生業務に関する疑問・課題について研究し、知識や理論を導き出すことについて、その方法や手順、留意点を理解したうえで研究成果の発表までをグループとして取組むことにする。 なお、授業は2年後期～3年前期まで継続して学び、準備、研究、まとめ、発表と進めていく。						
到達目標						
1. 問題解決のための専門知識が深まる 2. 自発的、創造的な学習態度が備わる 3. 研究の手順や方法が分かる						
計画・(内容)						
1. 研究計画書をもとに、進行手順や使用機材の準備など、研究のスケジュールをたてる(担当教員配置) 2. 研究計画書をもとに、進行手順や使用機材の準備など、研究のスケジュールをたてる(担当教員配置) 3. 研究の進捗状況の確認および計画の調整 4. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 5. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 6. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 7. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 8. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 9. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 10. プレゼンテーションの要領説明と、抄録・スライドの作成について 11. 抄録・スライド作成 ・ 提出 12. クラス内プレゼンテーション 13. 課題研究発表会(採点) 14. 課題研究発表会(採点) 15. 授業のまとめ・振り返り						
教本・参考図書				評価方法		
必要資料はプリントにて配布				課題研究発表会における全専任教員による採点(100点)		
留意事項						
臨地臨床実習をはさむため、計画的に実施すること 後期からは抄録・スライドの提出期日を確認し、計画的に進行すること 提出物の期限を遵守すること						

教科名	総合講義	時 期	3年 後期	担当者	各教科担当教員		
単位(時間数)	4 (120)	形 態	講 義				
概 要							
国家試験対策として1、2年次に履修した科目の復習を行う。 授業は、国家試験の出題傾向を促えた内容であり、重要ポイントの確認や例題の解説を中心に行う。							
到達目標							
1 国家試験に出題されるポイントがわかる 2 国家試験過去問題や例題が解ける 3 国家試験に対応できる学力をつける							
計画・(内容)					担 当		
口腔解剖					2回	国家試験対策、まとめ、例題	岩 井 祐・加 藤
口腔生理					1回	〃	深 瀬
口腔生化学					1回	〃	降 旗
病理学					2回	〃	富 樫・勝 又 譲
微生物学					2回	〃	澤 辺・永 井
薬理学					2回	〃	篠 田・林
口腔リハビリテーション					1回	〃	野 村
摂食嚥下					1回	〃	古 屋
保健生態学Ⅱ					3回	〃	奥・岩 井 祐
衛生統計					1回	〃	岩 井 祐
歯科衛生士総論					1回	〃	澤 谷
歯内療法					2回	〃	岩 井 宏・福 田
保存修復					2回	〃	平 田・齊 藤
矯正歯科					2回	〃	今 野・勝 又 茂
歯科補綴					2回	〃	北 條・額 賀 英
小児歯科					1回	〃	本 間
歯周疾患					2回	〃	石 塚・光 銭
口腔外科					2回	〃	白 石・村 田
放射線					1回	〃	中 川
障がい者歯科					1回	〃	額 賀 真
高齢者・有病者歯科					2回	〃	佐 藤・山 岸
栄養指導					1回	〃	渡 邊
口腔保健管理					12回	〃	千 葉・三 浦・渡 邊
診療補助					13回	〃	渡 邊・永 橋
教本・参考図書				評価方法			
各科目の教本 2027版徹底分析 年度別歯科衛生士国家試験問題集 国試の麗人(DES歯科衛生士部) ※各担当教員の指示に従う				単位認定試験220点満点のうち132点以上を合格とする			
留意事項							
・ 配布されたプリントは指示に従い適切に保管すること ・ 課題やプリント提出は期日を厳守すること ・ 進行は時間割を確認すること							